

群馬県天然記念物（地質・鉱物）

緊急調査報告書

1999.3

群馬県教育委員会

あ い さ つ

群馬県は、関東地方の北部に位置し、北西部の山岳地帯と、南西部の平野部とに大別されます。山岳地帯には、妙義山・浅間山・草津白根山・日光白根山・武尊山・榛名山・赤城山等に代表される火山や、新潟県との境をなす三国山脈、埼玉県との境をなす関東山地、栃木県との境をなす足尾山地、緩急の火山、非火山によって構成されています。その間を縫うように、利根川をはじめとする大小河川が急峻な渓谷や段丘を形成し、特徴ある景観をつくり出しています。平野部は、関東平野の北端を占め、山地から流れ出た河川により扇状地や古砂丘等を形成しております。これらの群馬の地形を形成する古生代から新生代までにわたる地質・鉱物は、これまでに学術的価値が高い5件が国の天然記念物に指定されています。

しかし、近年の地球科学の進歩はめざましく、新たな視点での地質・鉱物資料の検討が必要になってきています。その反面、近年の急速な開発は、加速度的に自然改変をもたらし、その価値が認められる前に失われてしまうものも少なくありません。

こうした現状を踏まえ、現在、国庫補助事業として地質鉱物の緊急調査が全国的に実施され、その調査結果広く活用するため、全国共通のデータベース化を図ることが意図されています。

本県でも、群馬県の土地の成り立ちを語る資料について、将来的に天然記念物として保存することを目的として、県下の悉皆調査と既指定天然記念物の見直し調査－「天然記念物（地質・鉱物）緊急調査」－を、平成9・10年度に、国庫補助を受けて実施しました。

短期間の調査ではありましたが、最新の学説と専門的知識をもった研究者によりまとめられたのが、本報告書であります。広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査の実施と報告書作成に取り組まれた、群馬県天然記念物緊急調査委員会の方々、ならびに事業の遂行にあたって御指導いただいた文化庁記念物課桂雄三文化財調査官、調査に御協力いただいた各市町村教育委員会の方々に厚く御礼申し上げます。

平成11年3月

群馬県教育委員会

教育長 関根正喜

目 次

例 言	iii
調査物件一覧表	iv
調査物件位置図	viii
群馬県地質図	ix
群馬の地形、地質、地史	x
調査物件個表	1
調査委員・調査員名簿	163

例　　言

- 1 この報告書は、平成9・10年度の国宝重要文化財等保存整備費補助事業の一環として、群馬県教育委員会が実施した、「群馬県天然記念物（地質、鉱物）緊急調査事業」の調査結果を一般広報用にまとめたものである。本事業は、急速な開発が進み、貴重な地質鉱物資料が消失の危機に直面している現在、将来に天然記念物として保存すべき資料を洗い出す目的でおこなわれた。
- 2 本事業は、群馬県教育委員会が実施主体となり、群馬県立自然史博物館を事務局とし、実際の調査にあたっては、群馬大学、群馬県高等学校教育研究会地学部会、その他県内の有識者を集めた「群馬県天然記念物（地質、鉱物）緊急調査委員会」を組織して実施された。同調査委員会の構成員は巻末に示したとおりである。
- 3 本報告書の記載項目は、本事業の調査結果として文化庁に提出した実績報告書の項目に準じ、本報告書の目的に沿って取捨選択したものである。

(1) 項目1のコード番号は基本的に7桁で構成されている。最初の2桁は都道府県コード番号であり、全ての物件が群馬県を示す10となっている。次の2桁は、地質鉱物関係の分野番号で、次の通りである。

地　形：0 1、層　位：0 2、古生物：0 3、堆　積：0 4、岩　石：0 5

鉱　物：0 6、鉱　床：0 7、構　造：0 8、火　山：0 9

また、最後の3桁は、今回の調査物件全体の通し番号であり、分野コードの若い順から添付している。各分野の中では、見出し語の五十音順に配置した。

(2) 項目5の2.5万分の1地形図幅名は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1地形図の図幅名である。なお、各物件の所在地を示すにあたり、原則として同図幅を使用した。

(3) 項目13のランクは、当該物件の地球科学上の学術的な重要度を示し、次のとおりである。
I (ローカル)、II (県内的)、III (広域的)、IV (全国的)、V (世界的)

(4) 項目15の参考文献の書き方は、日本地質学会発行の「地質学雑誌」の引用文献の記載方法に準じた。掲載誌の省略法についても同様である。

4 本報告書の編集は、事務局である群馬県立自然史博物館（中島啓治、角田寛子、野村正弘、高橋武夫）と調査員の久保誠二、飯塚静男がおこなった。

調査物件一覧表

コード番号	名 称	所 在 地
1001001	相間川十丈岩体の滝と竪穴	群馬県群馬郡倉渕村大字水沼
1001002	赤城山南麓の流れ山群	群馬県前橋市、伊勢崎市、勢多郡柏川村、佐波郡赤堀町
1001003	赤城火山西麓の流れ山群	群馬県前橋市、勢多郡富士見村、北橘村
1001004	吾妻峠	群馬県吾妻郡長野原町、吾妻町
1001005	あまが池「湧水池」	群馬県佐波郡東村上田269-2
1001006	荒船山	群馬県甘楽郡下仁田町
1001007	新巻平石の竪穴	群馬県吾妻郡東村新巻
1001008	石樋（いしつい）	群馬県吾妻郡嬬恋村大字田沢
1001009	碓氷川の水源	群馬県碓氷郡松井田町峰
1001010	V生犬穴の鍾乳洞	群馬県多野郡上野村大字乙父中越沢
1001011	大泉町の古砂丘	群馬県邑楽郡大泉町古海
1001012	大戸の仙人窟	群馬県吾妻郡吾妻町
1001013	大間々扇状地（段丘崖）	群馬県山田郡大間々町
1001014	大峰山の浮島及び湿原植物	群馬県利根郡月夜野町大字小川
1001015	追貝付近の河岸段丘	群馬県利根郡利根村
1001016	雄川水源の障子岩	群馬県甘楽郡甘楽町大字秋畑6018-1
1001017	尾瀬	群馬県利根郡片品村戸倉 新潟県北魚沼郡湯之谷村 福島県南会津郡檜枝岐村
1001018	小平鍾乳洞	群馬県山田郡大間々町小平
1001019	かに石のおう穴	群馬県北群馬郡小野上村村上3752-3
1001020	片品川の河岸段丘	群馬県利根郡昭和村
1001021	鏡川の河岸段丘	群馬県藤岡市、多野郡吉井町、甘楽郡甘楽町、富岡市、甘楽郡下仁田町
1001022	神流川の蛇行	群馬県多野郡上野村
1001023	倉渕村権田字上久保の出水	群馬県群馬郡倉渕村大字権田字上久保
1001024	沢渡の仙人窟	群馬県吾妻郡中之条町
1001025	三波石峠	群馬県多野郡鬼石町大字譲原字稻ヶ舞
1001026	ノ四万の竪穴	群馬県吾妻郡中之条町四万3520
1001027	諏訪峠	群馬県利根郡水上町
1001028	仙ヶ滝の岩床	群馬県碓氷郡松井田町土塙
1001029	千人隠れ	群馬県高崎市寺尾町
1001030	谷川連峰	群馬県利根郡水上町土合、湯桧曾、谷川、利根郡新治村赤谷

コード番号	名 称	所 在 地
1001031	中之条の河岸段丘	群馬県吾妻郡中之条町内四万川、吾妻川畔
1001032	箱島の湧泉	群馬県吾妻郡東村
1001033	榛名山北東麓の火碎流による扇状地状地形	群馬県渋川市、北群馬郡吉岡町、吾妻郡東村
1001034	榛名山東麓の流れ山群	群馬県北群馬郡吉岡町、北群馬郡棟東村、群馬郡群馬町、前橋市
1001035	吹割渓ならびに吹割瀑	群馬県利根郡利根村追貝
1001036	吹割の滝の甌穴群	群馬県利根郡利根村追貝
1001037	レ木二洞の鍾乳洞	群馬県多野郡上野村大字川和大福寿617番地
1001038	船尾滝	群馬県北群馬郡吉岡町
1001039	丸沼・菅沼	群馬県利根郡片品村
1001040	本白根山の構造土	群馬県吾妻郡草津町
1001041	沼田の河岸段丘	群馬県沼田市、利根郡白沢村
1001042	高津戸峡谷	群馬県山田郡大間々町高津戸
1001043	中之条の流れ山地形	群馬県吾妻郡中之条町大字折田147番地、および中之条町大字中之条町693番の1
1001044	妙義山	群馬県甘楽郡妙義町、下仁田町、碓氷郡松井田町
1001045	茂林寺沼及び低地湿原	群馬県館林市堀工町1169
1001046	矢太神沼「湧水池」	群馬県新田郡新田町大根
1001047	三峰山	群馬県沼田市、利根郡月夜野町
1002048	岩室層の不整合転石	群馬県利根郡白沢村岩室
1002049	北村凝灰岩および馬場凝灰岩	群馬県富岡市下高尾の星川および富岡市藤木の藤木川
1002050	権現峠付近の関東ローム層	群馬県沼田市
1002051	清水用水の関東ローム露頭	群馬県勢多郡黒保根村
1002052	原市層の連続露頭	群馬県安中市水口から北村にかけての碓氷川
1003053	安中市のウミガメ	標本：群馬県立自然史博物館ほか 産地：群馬県安中市郷原—松井田町新田間を流れる碓氷川河床
1003054	板鼻層中の貝化石床	群馬県高崎市、安中市、碓氷郡松井田町
1003055	岩室層の植物化石（木村コレクション）	標本：群馬県立自然史博物館
1003056	岩室の中生層と植物化石	群馬県利根郡白沢村岩室（岩室発電所から片品川の上流約500mの川岸）
1003057	上野村檜原の生痕化石	群馬県多野郡上野村檜原の神流川
1003058	折田の魚化石産地	群馬県吾妻郡中之条町大字折田地内四万川畔
1003059	叶山・二子山の石灰岩とフズリナ化石	群馬県多野郡中里村町二子山約2km
1003060	△兜岩層産出のカエル化石（2点）	標 本：群馬県立自然史博物館
1003061	△上黒岩のオオツノシカ	標本：蛇宮神社 龍骨碑：群馬県富岡市上黒岩 鑑定書：富岡市立美術博物館

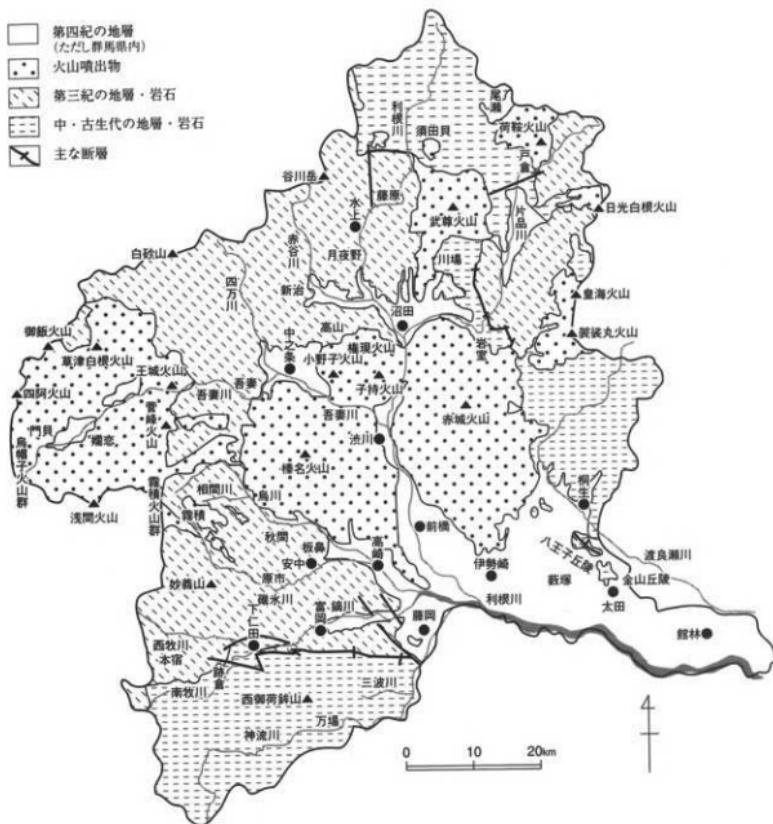
コード番号	名 称	所 在 地
1003062	桐生・梅田の石灰岩層	出土記録：大日尊遍照寺
1003063	下仁田町鶴田のネフロレピディナ	群馬県桐生市梅田町5丁目
1003064	瀬林の化石	群馬県多野郡中里村
1003065	戸倉ウルシ沢貝化石産地	群馬県利根郡片品村戸倉
1003066	利根川源流井戸沢の貝化石床	群馬県利根郡水上町藤原の利根川源流
1003067	中里村の恐竜化石	群馬県多野郡中里村瀬林地籍“八幡沢”
1003068	沼田湖成層中の化石林	群馬県沼田市、利根郡昭和村
1003069	レ野栗の材化石	群馬県多野郡上野村大字新羽字中石津1574番地
1003070	ヘリコブリオン	東京都文京区東京大学
1003071	本宿層の化石産地	群馬県甘楽郡南牧村星尾
1003072	吉井町のパレオバラドキシア	群馬県多野郡吉井町小棚
1004073	尾瀬ヶ原泥炭標本	群馬県沼田市西原新町1510番地
1004074	観音山の堆積サイクルと古三角州	群馬県立沼田高等学校
1004075	古蛇崩礁	群馬県高崎市
1004076	瀬林の疊痕	群馬県富岡市大島（鍋川右岸）
1004077	中之条湖成層	群馬県多野郡中里村大字神ヶ原字瀬林1241の1
1004078	南蛇井の不整合露頭	群馬県吾妻郡吾妻町原町吾妻川畔（東橋上流）右岸
1004079	沼田湖成層	群馬県南蛇井（なんじやい）
1005080	青山の浅間石	群馬県沼田市
1005081	岩神の飛石	群馬県吾妻郡中之条町青山
1005082	上野村亀甲石産地	群馬県前橋市昭和町三丁目
1005083	金鳥の浅間石	群馬県吾妻郡上野村樺原
1005084	川原湯岩脈	群馬県吾妻郡長野原町
1005085	巨晶よりなる変成岩	群馬県利根郡白沢村、利根村
1005086	下仁田町の青岩	群馬県甘楽郡下仁田町吉崎
1005087	谷川岳山頂の結晶片岩・同産地	群馬県利根郡水上町谷川岳山頂
1005088	つづみ石（ポンポン石）	群馬県吾妻郡中之条町中之条394-5
1005089	とうけえ石（縞荷石・頭鵝石）	群馬県吾妻郡中之条町中之条1856
1005090	中村の浅間石	群馬県渋川市中村835
1005091	馬見岡凝灰岩露出地	群馬県新田郡笠懸町大字西鹿田、字天神山
1005092	みかぶ帯の枕状溶岩	群馬県多野郡万場町
1006093	川手山のズニ石産地	群馬県利根郡新治村大字入須川字一ツ岩乙1419
1006094	董青石、ムル石	浅間山中腹付近
1006095	草津白根火山の硫黄	群馬県吾妻郡草津町の草津白根火山周辺
1006096	自然鉄	群馬県甘楽郡下仁田町細董
1006097	四万の水晶山	群馬県吾妻郡中之条町四万、山口

コード番号	名 称	所 在 地
1006098	タキガ沢火山灰層	群馬県利根郡水上町湯の小屋
1006099	沈殿硫黄	群馬県吾妻郡草津町
1006100	長島石、鈴木石	群馬県桐生市茂倉沢茂倉沢鉱山
1006101	藤岡市鉢沢のアンモニオ白榴石	群馬県藤岡市下日野243
1006102	南石	群馬県吾妻郡嬬恋村奥万座温泉
1007103	川場村のザクロ石鉱床	群馬県利根郡川場村
1007104	下宿の砂鉄鉱床	群馬県利根郡新治村入須川140番地の1
1007105	根羽沢鉱山	群馬県利根郡片品村大清水
1007106	平ヶ岳の輝水鉛鉱鉱床	群馬県利根郡水上町藤原
1008107	牛伏山衝上断層	群馬県藤岡市、多野郡吉井町、甘楽郡甘楽町、富岡市、甘楽郡下仁田町
1008108	奥利根の平行岩脈群	群馬県利根郡水上町藤原矢木沢ダム原石山
1008109	下仁田のクリッペ群	群馬県甘楽郡下仁田町風口、青倉、吉崎、馬山
1008110	平井の活断層	群馬県藤岡市
1008111	本宿層の陥没構造	群馬県甘楽郡南牧村星尾
1008112	宮室の逆転層と羽状割れ目	群馬県甘楽郡下仁田町大字宮室
1009113	赤城火山山頂付近の火山地形	群馬県勢多郡赤城村、富士見村、宮城村、柏川村、新里村、黒保根村、利根郡利根村
1009114	吾妻火碎流の露頭	群馬県吾妻郡嬬恋村黒豆河原
1009115	浅間山の鬼押出し溶岩	群馬県吾妻郡嬬恋村、長野原町
1009116	△浅間山溶岩樹型	群馬県吾妻郡嬬恋村
1009117	四阿山	群馬県吾妻郡嬬恋村
1009118	△鬼岩	群馬県吾妻郡嬬恋村干俣（四阿山登山道）
1009119	鎌原岩塊	群馬県吾妻郡嬬恋村細原
1009120	子持火山の火山岩頭・放射状岩脈・環状岩脈	群馬県群馬郡子持村、沼田市、吾妻郡高山村、北群馬郡小野上村
1009121	西の河原	群馬県吾妻郡草津町
1009122	白根山頂の火口群	群馬県吾妻郡草津町
1009123	穀生河原	群馬県吾妻郡草津町
1009124	棚下火碎流の崖	群馬県勢多郡赤城村
1009125	角落山岩体	群馬県群馬郡倉渕村大字水沼
1009126	日光白根山	群馬県利根郡片品村
1009127	榛名山山頂付近の火山地形と放射状岩脈	群馬県北群馬郡伊香保町、吉岡町、榛東村、吾妻郡吾妻町、東村、群馬郡倉渕村、榛名町、箕郷町
1009128	二ツ岳の軽石層	群馬県渋川市
1009129	辨天岩岩脈	群馬県碓氷郡松井田町五料字辨天岩
1009130	万座の空噴き	群馬県吾妻郡嬬恋村

調査物件位置図



群馬県地質図



第1図 群馬県の地質 (野村 哲編著『群馬の自然をたずねて』築地書館、1998)

群馬の地形、地質、地史

1. はじめに

群馬の自然是豊かである。海こそないが、山と谷、火山、平野があり、それぞれの地域は、大地のおいたちを反映して豊かな生活環境をつくりだしている。

群馬県は、県の中央部に赤城、榛名、小野子、子持の4火山が座っていて、これらの南東方向に関東平野が広がる。また、4火山の南西から時計まわりに東方にかけては、起状に富んだ山地がとりかこんでいる。さらに埼玉県、長野県、新潟県、福島県、栃木県との県境は、利根川本流とその支流の分水嶺になっていて、群馬県の各河川は、野反湖、尾瀬などの区域を除けば、すべて利根川に注ぎこんでいて、群馬県の概略的な地形を読みとることができる。群馬県の地形は、大局的に見れば、他県にくらべて単純である、ということができる。ただし、山地と平野部の境界に榛名山と赤城山があって、ぐんまの地形をやや複雑にしていて、西高東低の冬型の気圧配置で県北部に雪が降っても、両火山の南側は積雪をみることは極めてまれである。

一方、群馬の地質は、複雑な構造になっていて、今日においても未解決の課題が多く、多くの研究材料を残していて、全国の地質研究者をひきつけています。群馬県で、もっとも古い古生代・中生代の岩石は、県の南西部と北東部に分布していて、関東山地や足尾山地、利根川源流部の大地を構成している。両者に挟まれた、県中央部から北西部にかけては、下位に第三紀の中新世前期～中期に堆積した海成層が、上位には中新世後期以降の激しい火山活動による火山岩類が重なっている(第1表)。また渋川から東毛地域にかけての平野部には、第三紀末から現世にかけて堆積した砂礫層が数百メートルの厚さに堆積していて、地下水の貯留層になっている。

地層や火成岩の年代、地質構造などから導きだされる大地のおいたち(地史)は、古第三紀以前は不明のところが多いが、新第三紀以降は、比較的よく分かっていて、どこの地域が海から陸地になっていったか、どんな生物がどこに住んでいたかが明らかにされつつある。

2. 地 形

群馬県の地形を平野部、関東山地、鏡川支流の西牧川流域・碓氷川流域、吾妻川流域、赤谷川流域、利根川源流域、片品川流域、足尾山地に分けて述べる。

(1) 平野部

群馬の平野部は、南方と東方を除くと、まわりを山地でかこまれていて、この山地から神流川、鏡川、碓氷川、烏川、利根川上流部、渡良瀬川が流れこんでいて、平野部に砂礫を運び続けて、平坦な地形を形成した。平野部は、県の南東端がもっとも低く、標高は15m、北西に向かうにつれて高度をあげ、伊勢崎付近で60m、前橋で100m、渋川市の利根川沿いで170mとなる。

(2) 関東山地

群馬県の南西部には、中生代、古生代の岩石が分布し、埼玉県の西部地方、山梨県の北部地域を含めて関東山地と呼ばれている。藤岡市の南西部、多野郡鬼石町、万場町、中里村、上野村、甘楽郡の甘楽町南部、下仁田町南東部および南牧村の南半分が関東山地に入る。関東山地には、県最南端の三国山(1818m)を筆頭に標高1500m前後の山々が連なり、神流川、南牧川、鮎川が谷を深く削りこんでいる。そのために平坦地が少なく、川ぞいのわずかな平地や山の斜面の比較的なだらかな傾斜地が生活面に利用されている。

(3) 鏡川支流の西牧川流域と碓氷川流域

この地域の東部と西部とでは、きわだった対照をなしている。すなわち、東部地域は標高200～400m前後

の丘陵と、鍋川・碓氷川にそう標高100m～200mの平坦地とからなる。河岸にそう段丘崖には中新世の海成層が露出していて、いわゆる浸食段丘を形成している。

一方、西部地域には、後期中新世から第四紀にかけて噴出した火山岩類が分布していて、起伏に富み、標高1000～1400mの急崖にかこまれた荒船山（1423m）、妙義山（1162m）などが林立する。明治以前から今日まで長野県に通じる交通の難所として知られているが、主たる原因は、東部地域に分布する堆積岩は浸食されやすく、西部地域の火山岩類は浸食に耐えていて、その境界付近に大きな高度差を生じたため、と考えられる。

（4）吾妻川流域

この流域には、源流部に浅間火山（2568m）、四阿火山（2333m）、草津白根火山（2138m）などが、下流部には榛名火山（1448m）、小野子火山（1208m）、子持火山（1296m）があって、それぞれが山麓斜面を形成しているために、ほかの河川の流域に比べると起伏が少ない。中之条盆地をのぞけば平坦な地形は少なく、吾妻川は峡谷をつくって流れている場合が多い。源流部の火山の山麓は、標高900～1400mの高原になっていて、高原野菜の特産地として知られている。

（5）赤谷川流域

かつては上州から越後にむける三国街道が、その後は国道17号が通っていた流域で、源流には稲包山（1598m）、三国山（1636m）、平標山（1984m）、仙ノ倉山（2026m）、万太郎山（1954m）などの山々にかこまれている。赤谷川ぞいには、河岸段丘が形成されており、その上面に集落が多い。赤谷湖から下流は比較的なだらかな山麓斜面があるが、赤谷湖から上流の西川と赤谷川本流は、深いV字谷を形成している。

（6）利根川源流域

利根川源流域の大部分は、水上町が占めていて、群馬県の中で、もっとも起伏に富んだ、標高の高い連山にかこまれている。谷川岳（1963m）、茂倉岳（1978m）、柄沢山（1900m）、丹後山（1809m）、平ヶ岳（2140m）、至仏山（2228m）、武尊山（2158m）などの連山は、登山家以外は人を寄せつけないほどの険しい地形になっている。月夜野町から須田貝ダムまでの間に小さな河岸段丘がつくられ、生活が営まれている。

（7）片品川流域

栃木県と境する片品川流域には、川の東方側に深い谷を持った連山があり、北から荷越山（2042m）、鬼怒沼山（2141m）、金精山（2244m）、日光白根山（2578m）、皇海山（2144m）、袈裟丸山（1878m）など2000mを超える山々が10座以上並んでいて、群馬県内で最も高い山岳地帯を形成している。川の西側には武尊火山（2158m）があって、山麓斜面にはスキー場や湿原がある。片品川ぞいには河岸段丘が発達して生活面を提供している。

（8）足尾山地

群馬県の東部に位置する足尾山地は、桐生市の北東部、大間々町北東部、勢多郡黒保根村の東半部および東村を含む地域で、関東山地と同様の中生代、古生代の地層や火成岩からできている。袈裟丸山火山（1908m）を最高に1200m前後の山々があり、これらを深く掘り込んで渡良瀬川と桐生川が南北方向に流れくだる。赤城山の鳥居峠から足尾山地を眺めると、山頂部がみごとな平坦地形になっていることが分かる。

3. 地 質

（1）古生界、中生界

群馬の大地の歴史は、古生代に始まる。古生代とこれに続く中生代の地層は、明確な形で時代区分が行われていない。したがってここでは、両者を一括して記述する。

中・古生界的分布域は、県南部の関東山地と県北東部の足尾山地から利根川源流域にかけての地域の二つ

に分かれている（第1図）。関東山地の北半部には、三波川結晶片岩、御鉢変成岩と呼ばれていた変成岩類が、南半部には砂岩、頁岩、チャートなどからなる堆積岩類が分布する。南部の中央部には山中地溝帯と呼ばれる白亜紀地層が西北西—東南東の方向に2~3kmの幅でのびている。

足尾山地の中・古生界は、足尾層群とも呼ばれ、変成岩類を含まず、かつ、北東—南西方向の走向をもって、関東山地の西北西—東南東方向と著しく異なっている。砂岩、頁岩、チャートを主とし、石灰岩をはさむ。草木ダムから北方の栃木県茂生町の西部にかけては、沢入の地名にちなんだ沢入花崗岩が分布し、石材として利用してきた。

片品川流域の中・古生界は、まとまった分布を示さない。菌原ダム周辺の岩室層、源流部で戸倉北東の戸倉沢層、尾瀬ヶ原北方の檜枝岐層などがある。利根川源流部で県最北端部には、砂岩、頁岩からなる奥利根層群が分布しその南は須田貝ダムのところまで白亜紀の花崗岩（須田貝花崗岩）が広がる。

(2) 古第三系

群馬県における古第三系の有無については議論のあるところであるが、年代測定や対比から、従来中生界とされていた太田市金山の金山流紋岩類、下仁田町の骨立山凝灰岩などが古第三系とする考えがある（竹内・牧本、1991；高橋ほか、1989）。

(3) 新第三系

新第三系は、県内のの中・古生界分布域を除いた地域、すなわち、鍋川、碓氷川、烏川、吾妻川、赤谷川、利根川源流域の須田貝ダムから下流にかけて、沼田周辺、片品川中流域、太田市から笠懸町にかけての八王子山系西斜面などに分布する。片品川流域を除けば、いずれの地域も下半部は海成の礫岩、砂岩、泥岩である場合が多く、上半部は陸成の火山岩類である。

鍋川・碓氷川流域では、下部中新統から中部中新統までは、同一の堆積盆で形成された海成層で、砂岩、泥岩、凝灰岩を主とし、東西ないし西北西—東南東の走向をもち、北に20~30度傾斜する構造になっている。

(4) 第四系

群馬県の第四系は、火山噴出物堆積物と平野部および各河川ぞいに堆積した碎屑堆積物である。第四系は、人々の水理、農地、建設地盤などを提供しており、環境保全の問題でも深く関わっている。

4. 地史

大地のおいたからみれば、平野部は沈降地域、分水嶺をつくっている山地は隆起地域ということができる。

(1) 古生代

群馬県で見つかっている最も古い岩石は、関東山地や足尾山地の地層中に取りこまれている異地性の岩塊で、コノドント、フズリナなどの化石から石炭紀（滝沢、1979；久保ほか、1988）とされている。また、片品川源流の尾名沢層（矢野ほか、1993）や尾瀬の檜枝岐層（藤本・小林、1961）からは、二疊紀の化石が報告されていることから、古生代の後期には、群馬県の大部分を海が覆っていたと考えられる。

(2) 中生代

中生代前期の三疊系からは、利根川源流の奥利根層からモノチス貝（藤本・矢部、1955）が、片品川源流の戸倉沢層からコノドント化石（林ほか、1965）が、足尾山地からコノドントのほかにアンモナイトなど（林・長谷川、1981）が、関東山地西御荷鉢山の異地性岩塊中からコノドント（滝沢、1979）が、両神層のコノドント（通商産業省資源エネルギー庁、1975）などがみつかっている。

ジュラ紀には、関東山地の各地から放散虫化石が、足尾山地からもコノドント化石（指田ほか、1982）が発見されている。これらの証拠により、三疊紀～ジュラ紀の時代は、関東山地から足尾山地にかけての地域は海におおわれていたとみることができる。

しかし、片品川の菌原ダム周辺の岩室層からは、シダ、ソテツ、イチョウなどの陸上の植物が発見（木村、1952）されていることから、陸域のあったことが示される。

(3) 古第三紀

群馬県では、従来、中生層とされていた下仁田町の骨立山凝灰岩がフィッショントラック年代で5800万年前（竹内・牧本、1991）、太田市の金山から笠懸町にかけて分布する金山流紋岩類がK-Ar年代で5700万年前（高橋ほか、1991）になったため、古第三紀であると考えられるようになったが、このほかには地層や化石が見つかっていないために、当時の古地理は不明のままである。

しかし、白亜紀末から古第三紀を経て新第三紀中新世前期にかけては四ツ又山石英閃緑岩の貫入（1億1000万年前；高木ほか、1989）、草木ダムから北方にかけて分布する沢入花こう閃緑岩の貫入（8700万年前；河野・上田、1966）、須田花こう岩の貫入（6500万年前；吉川・久保、1993）、平滑花こう岩の貫入（6500万年前；高木ほか、1989）、金山流紋岩類の噴出、三波川帯の変成作用、跡倉クリッペの形成、中央構造線の活動など、大規模な火成・変成作用や地殻変動のあったことが知られている。

(4) 新第三紀

新第三紀は約2300万年前に始まって500万年前に終わる中新世と、つづいて始まり、200万年前に終る鮮新世とに分けられる。古第三紀以前の時代にくらべれば短い時間だが、新第三紀に起こった大地の変化は今日の自然環境の主要な部分を創り出している。

中新世になると、関東山地と足尾山地は、それまで低かった丘陵がゆっくりと隆起をはじめる一方で、関東山地北縁の鍋川とその支流の西牧川、および足尾山地とに挟まれた群馬県中央部は、沈降して海が侵入し、礫、砂、泥、火山灰などが堆積、その中に有孔虫、魚類、貝類、カメ、クジラなどの遺体をとじこめていった。中期中新世初期には、新第三紀の中では、最も海域が大きく、長野県や新潟県にも広がっていた（第2図a）。

1100万年前の中期中新世末期になると、関東山地（野村、1991）と足尾山地は隆起を速め、鍋川、赤谷川、利根川上流の各流域は陸域になった（第2図b）。このような大地変動の経過は、今日の地質構造にも反映している。すなわち、関東山地の北縁に堆積した牛伏層、小幡層、井戸沢層、原田篠層、庭各層、原市層、板鼻層は北ないし北東方向に、県北部の栗沢層、後閑層、赤谷層などは全般的に南西方向に、桐生市、藤塚本町、太田市にまたがる八王子山系の藤塚層は南西方向にそれぞれ傾斜している。

後期中新世になると海域はせばまつて、今日の平野部に限られ（第2図c）、荒船山から碓氷川上流域、烏川上流域、吾妻川中流域、四万川、吾妻川上流、白砂川上流等を含む地域が、陸上の火山活動の舞台になり、火山岩類が下位の海成層を厚くおおってしまった。この傾向は鮮新世にもひきつがれ第四紀をむかえることになる。

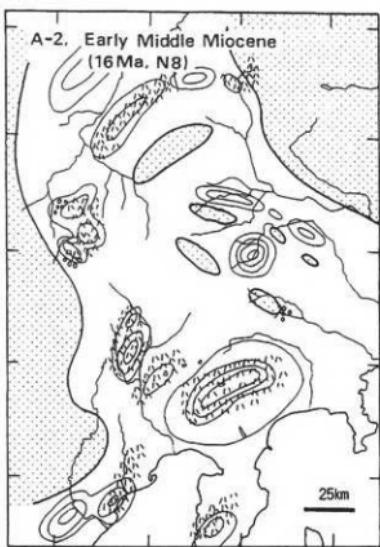
(5) 第四紀

約200万年前に始まり現在に至る第四紀は、今日の自然環境を完成させた時代である。

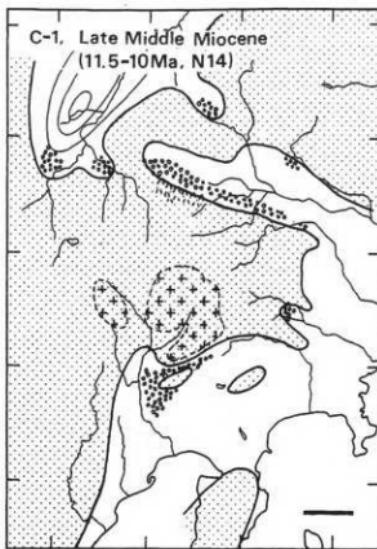
第四紀は群馬・長野県境を南北から北へ入山付近、鼻曲山を経て普峰山までの火山、浅間山西方の鳥帽子山付近から四阿火山を経て志賀高原に至る火山、尾瀬周辺の火山から皇海、袈裟丸火山まで、および武尊火山、つづいて県中央部の小野子、子持、榛名、赤城の各火山、最後に浅間火山が誕生した。

一方、県境を流域とする河川が砂礫を運搬して平野部に堆積させた。平野部は沈降域でもあったので堆積物は利根川中流域を中心に厚さを増して地下水を貯蔵する地下水盆を形成した。

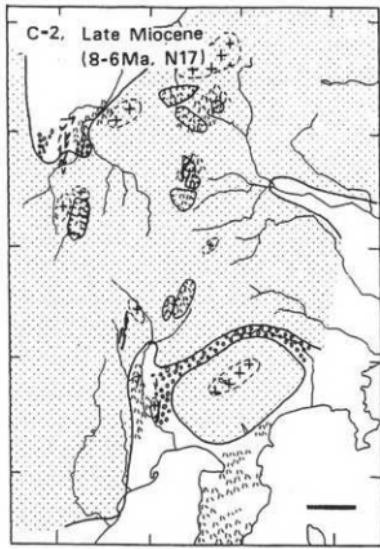
群馬県の河川系は利根川一本、という地形の特徴は、これまで述べてきたような、約1000万年前以降の大河の歴史、すなわち、平野部を除く県境寄りの山地は隆起、平野部は沈降という大地の変動を反映したものである。



a. 中期中新世初期 (1600万年前)



b. 中期中新世末期 (1100万年前)



c. 後期中新世 (700万年前)

- 陸域
- 海域
- ▨ 薄の堆積
- ▨+ 火山噴出物の堆積
- ▨// 酸性深成岩の進入活動
- ▨/\\ シート状进入岩体および貫入岩体の活動
- ▨○ 古崖線、捲曲、断層、陥没盆地
- ▨ 湖
- ▨ 等厚線 (センター間隔は500 m)

第2図 関東地方西部・中部地方東部の古地理図 (フォッサマグナ地質研究会、1991)

第1表 群馬県の地層対比表

地質年代			主要河川流域の地質層序																			
代	紀	世	期	年代(万年)	神流川	鍋川	碓氷川	烏川	吾妻川上流	吾妻川下流	利根川上流	片品川	渡良瀬川									
第四紀	新世	完新世	後期	1	上部ローム層	上部ローム層	上部ローム層	棟名火山	浅間火山	上部ローム層	上部ローム層	日光白根火山	上部ローム層									
		更新世	中期	13	中部ローム層	中部ローム層	下部ローム層	鼻曲火山	草津白根火山	中之条泥流堆積物	前橋泥流堆積物	赤城火山	大間々崩れ地堆積物									
	新世	前期	後期	78	下部ローム層	太子火鉢流	小野子火山	子持火山	沼田湖成層	武尊火山	荷葉(アヤメ平)火山	袈裟丸火山										
		新世	後期	170	霧ヶ峰層	入の湯部層	秋田戸・長谷・本宿層	川原湯層	吾妻層	念仏平溶岩	(谷川岩体)	鬼怒川流紋岩類										
第三紀	中新世	新世	後期	340	妙義層	道全・湯の沢層	本宿層	板鼻層	八ツ場層	切ヶ久保層	利根川溶結凝灰岩層	追貝層群	片品川流紋岩類									
				520																		
		中期	後期		520	道全・湯の沢層	本宿層	板鼻層	吾妻層	高田山層	大通層	合瀬沢層	強戸れき層									
	古世	中新世	中期	1040	1040	本宿層	原市層	原市層	川原畠層	沢渡層	奥日光流紋岩類	金山流紋岩類										
		新世	後期	1630	1630	原市層	原市層	原市層	川原畠層	奥日光花こう岩層	奥日光花こうせん緑岩層	足尾層群										
中生代	白堊紀	古第三紀	後期	2330	2330	脊立山凝灰岩	山中層群	跡倉層	奥利根層群	戸倉層	岩室層	足尾層群										
		中新世	後期	6500	6500	山中層群	跡倉層	奥利根層群	戸倉層	岩室層	足尾層群											
	古第三紀	白堊紀	後期	14600	14600	三波川結晶片岩・御荷鉢緑色岩類・秩父帶中古生層	三波川結晶片岩・御荷鉢緑色岩類・秩父帶中古生層	石炭石・チャート・溶岩の異地性岩塊	谷川岳蛇紋岩マラング川場片岩岩類	戸倉オフィオライト	石炭石・チャート・溶岩の異地性岩塊											
		中新世	後期	20800	20800	石炭石・チャート・溶岩の異地性岩塊	石炭石・チャート・溶岩の異地性岩塊															
古生代	石炭紀	古第三紀	後期	24500	24500																	
古生代	石炭紀	古第三紀	後期	29000	29000																	
古生代	石炭紀	古第三紀	後期	36300	36300																	

(野村哲編著「群馬の自然をたずねて」築地書館、1991)

引用文献

- フォッサマグナ地質研究会, 1991, フォッサマグナの隆起過程. 地団研専報, 38号, 159-181.
- 藤本治義・小林二三雄, 1961, 奥羽地方内帯の古生層について. 地質雑誌, 67卷, 221-227.
- 藤本治義・矢部之男, 1955, 利根川水源地域東保沢層産 *Entomonotis* について. 地学雑誌, 64卷, 103-104.
- 林 信悟・神沢憲治・木崎喜雄・大竹 忍・武井曇晴・戸谷啓一郎・山下 畏, 1965, 片品川中流地域で発見した“手取統”. 地質雑誌, 71卷, 76-77.
- 林 信悟・長谷川美行, 1981, 足尾帶び秩父系-大型化石およびコノドントによる年代論(その2) 中生代造構作用の研究, 11号, 233-249.
- 久田健一郎・上川容市・岸田容司郎・山際延夫, 1988, 関東山地西部の秩父帯北帯の石灰岩・チャート・頁岩の堆積年代. 大阪教育大紀要, III部門, 37卷, 183-193.
- 河野義礼・植田良夫, 1966, 本邦火成岩のK-Ar dating (IV) - 東北日本の花崗岩類一. 岩鉱, 56卷, 41-55.
- 木村達明, 1952, 岩室累層の地質学的研究 (1). 地質雑誌, 58卷, 457-468.
- 野村 哲, 1991, 関東山地北側の新生代末の隆起過程. 地団研専報, 38号, 95-102.
- 野村 哲編著, 1998, 群馬の自然をたずねて. 繁地書館.
- 指田勝男・猪郷久治・猪郷久義・滝沢 茂・久田健一郎・柴田知則・塙田邦治・西村はるみ, 1982, 関東地方のジュラ系放散虫化石について. 大阪微化石研究会誌, 5卷, 51-66.
- 高木秀雄・柴田 賢・内海 茂・藤森秀彦, 1989, 関東山地北縁の花崗岩類のK-Ar年代. 地質雑誌, 95卷, 369-380.
- 高橋雅紀・大友育也・齊藤和男, 1989, 群馬県東部金山地域に分布する溶結凝灰岩のK-Ar年代. 地調月報, 42卷, 167-173.
- 竹内圭史・牧本 博, 1991, 関東山地北部の溶結凝灰岩・花崗斑岩およびホルンフェルスの放射年代. 地質雑誌, 97卷, 315-318.
- 滝沢 茂, 1979, 関東山地北部の秩父帯の層序. 鹿沼茂三郎教授退官記念論文集, 89-101.
- 通商産業省資源エネルギー庁, 1975, 秩父地域. 広域調査報告書, 56.
- 矢野賢治・石田啓祐・双木英人・阪元恵一郎・加藤孝幸, 1993, フォッサマグナ東方における超丹波帯相当層の発見. 地質学会第100年学術大会演旨, 456.
- 吉川和男・久保誠二, 1993, 群馬県北部檜俣川流域に分布する火成岩・火碎岩の放射年代. 群馬大教育紀要, 自然科学編, 41卷, 35-51.

(野村 哲)

1 コード番号

1001001

2 都道府県名

群馬

3 名称

相間川十丈岩体の滝と甌穴

4 所在地

群馬県群馬郡倉渕村大字水沼

5 目標物からの方位・距離

角落山の東約1.5km

6 2.5万分の1地形図

浅間隠山（軽井沢）

7 対象地面積

2,500m²

8 概説

相間川流域には溶岩・凝灰角礫岩などから構成される相間川累層が分布している。これらの火山性堆積物を貫く火成岩体があり、その一つが十丈岩体で、太平の上流約1kmほどの位置にある。この岩体は相間川の流路に滝をつくっており、その下流部に流水の侵食によって形成された甌穴が多く見られる。うち1個は径2m、深さ約1mある。ほかは浅いくぼみ状。

9 詳細説明

8と同じ

10 現況

大きい甌穴1コは、半分以上土砂に埋まっている。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

国有林と磯村産業の林地の境界

14 キーワード

倉渕村、十丈岩体、流水の侵食作用、甌穴

15 ランク

I

16 その他

特になし

17 参考文献

秋間団体研究グループ、1975、群馬県烏川支流、

相間川流域の地質、地球科学、29、4、

166-176。

18 記入者名

山岸勝治

19 添付図表等

地形図、地質図



十丈岩体にかかる滝

1 コード番号

1001002

2 都道府県名

群馬

3 名称

赤城山南麓の流れ山群

4 所在地

群馬県前橋市、伊勢崎市、勢多郡柏川村、佐波郡

赤堀町

5 目標物からの方位・距離

群馬県庁から東へ10km付近

6 2.5万分の1地形図

大胡

7 対象面積

主要部は 6 km²

8 概説

赤城南麓の大胡町南東から伊勢崎市の北にかけては、数多くの流れ山が分布している。産泰神社や石山はその一例である。これらは、赤城火山の大崩壊に伴って発生した岩屑なだれによるものであるが、その発生年代は不明である。

9 詳細説明

流れ山は大部分が大胡町、新里村膳、伊勢崎市北部を結ぶ三角形の中に分布している。數は確認されたものだけで34に達している。特に波志江沼付近から柏川村深津にかけては、規模の大きいものが集中している。流れ山の基底はほぼ楕円形で、長径は数10m～500m程度、短径は20m～200m程度である。また高さは低いもので数m、高いものでは50mを越える。全体として長径は南北方向に向く傾向がある。一般に流れ山の山麓側がやや急傾斜であるが、山頂側は緩傾斜である。北部山麓に分布するものは、火山麓扇状地ないしは柏川扇状地の堆積物に部分的に埋積され、山頂側斜面との境界が不明瞭である。桂川の左岸側では、いくつかの流れ山がほぼ南北に互いに接して並んでいる。

全面露頭はないが、採石、道路建設、崩壊などによる露頭がある。露頭が小さいので詳細は不明であるが、主に凝灰角礫岩よりなり、一部には压碎を受けた様子がうかがえる。産泰神社の流れ山上には、

流状構造をもった安山岩溶岩が、塊状溶岩状に重なっている。岩塊は長径が4.5m～1.5mで、數10個が認められる。石山上にも類似の産状をした溶岩や凝灰角礫岩が見られる。五目牛の流れ山では、1.5m×1.2m×10mの巨礫が観察される。

10 現況

大部分は林や耕地になっているが、一部は採石場になっている。市街地に近いものは、宅地開発で破壊されつつある。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

流れ山、産泰神社、岩屑なだれ、石山

15 ランク

II

16 その他

産泰神社では、巨石群が神体となっている。

17 参考文献

久保誠二, 1990, 赤城火山南麓の流れ山, 群馬県
の貴重な自然, 地形・地質編, 群馬県, 90-91.
守屋以智雄, 1968, 赤城火山の地形および地質.
前橋営林局, 53p.

18 記入者名

菅野重也、久保誠二

19 添付図表等



石山般音裏の巨石



1 コード番号

1001003

2 都道府県名

群馬

3 名称

赤城火山南西麓の流れ山群

4 所在地

群馬県前橋市、勢多郡富士見村、北橘村

5 目標物からの方位・距離

県庁から北へ約 9 km

6 2.5万分の1地形図

渋川

7 対象面積

主要な部分で 3 km²

8 概説

国道17号線にかかる板東橋付近の赤城山麓には、橘山、城山などの流れ山が分布している。赤城火山の岩屑なだれによるもので、一部には断面が露出しており、内部構造を知ることができる。

9 詳細説明

流れ山は佐久発電所調整池の北東、標高320m付近の赤城火山山麓斜面から、利根川に接した山麓の最末端にかけて分布している。流れ山と確認できたものが19ある。このうち代表的なものが利根川に面した橘山、城山、最も高い所にある調整池付近の十二山である（十二山は二つある）。流れ山の基底はほぼ椭円形で、大部分は長径が北北東～南南西に向いているが、利根川に接しているいくつかのものは、利根川には平行な北北西～南南東向きである。長径は800m～100m、短径は30m～200m、比高は10m～50mである。特に大きいものは複数の流れ山が接合している可能性がある。流れ山の山麓側は傾斜がやや急であるが、山頂側は緩傾斜で、山麓斜面や尾根との境界が不明瞭な場合が多い。山体内部は圧碎した形跡のある凝灰角礫岩や溶岩で、凝灰角礫岩の中には火碎流堆積物も認められる。現在コンクリートで被われている部分も含めて、少なくとも21枚の、厚さ1～5mの溶岩塊が挟まれている。溶岩には表面に直角に近い亀裂が多く見られる。

流れ山と流れ山の間は、火山麓扇状地堆積物で埋

められている。

板東橋の北側の流れ山は、利根川に面してほぼ全断面が露出しており、流れ山の内部構造を知る上で、きわめて貴重である。

10 現況

林におおわれたり、一部が畠になっている。橘山、城山の利根川に面した崖は、内部構造が露出しているが、大部分はコンクリートで被覆されてしまった。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

流れ山、橘山、城山、岩屑なだれ

15 ランク

II

16 その他

特になし

17 参考文献

久保誠二, 1990, 赤城火山南西麓の流れ山, 群馬県の貴重な自然, 地形・地質編, 群馬県, 32-33.

守屋以智雄, 1968, 赤城火山の地形および地質, 前橋営林局, 53p.

18 記入者名

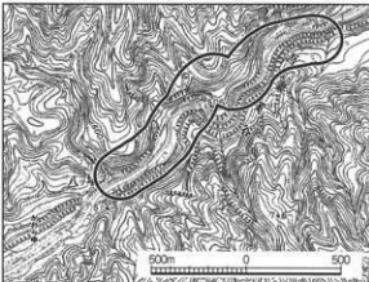
菅野重也, 久保誠二

19 添付図表等



城山から見た橘山



- 1 コード番号
1001004
- 2 都道府県名
群馬
- 3 名称
吾妻峠
- 4 所在地
群馬県吾妻郡長野原町、吾妻町
- 5 目標物からの方位・距離
JR川原湯温泉駅より北東200m地点から1km先の鹿飛橋までの吾妻川河岸沿い
- 6 2.5万分の1地形図
長野原
- 7 対象面積
200,000m²
- 8 概説
 吾妻渓谷は、吾妻川の数万年以上の歳月におよぶ浸食作用によってつくられ、断崖絶壁の地形を特徴としている。また、昔から交通の障害となり、吾妻の経済・文化を東吾妻と西吾妻に二分してきた。この地域は、クリーコナラ群集の自然林が多く、これらの樹木の若葉や紅葉は、岩壁、流水などと一緒に、みごとな自然景観をかもし出している。植物相としては、古い地質帯の太平洋型気候域に分布する「そはやき要素」が多くみられ、貴重な地域でもある。地理学者の志賀重昂は、九州の耶馬溪に勝るとも劣らないこの吾妻渓谷を「関東耶馬溪」と称してほめたたえている。
- 9 詳細説明
 吾妻渓谷は、今から約700~500万年前の陸上で流れ出た溶岩や火山噴出物から構成される「ハッ場層」とこの地層を貫く岩脈などからできている。ハッ場層は緑色に変質しちりーンタフ層となっている。岩脈は流紋岩、安山岩、玄武岩などの各種岩脈が多数観察できる。
- 10 現況
 吾妻川両岸の遊歩道にそって、渓谷美を満喫しながら進むことができる。しかし、ダムの建設に伴い、数年後から不可能となる予定である。
- 11 文化財指定状況
- 国指定天然記念物 名勝 351224
- 12 他の法令等による指定状況
不明
- 13 土地所有者・形態
建設省
- 14 キーワード
グリーンタフ層、渓谷、ダム建設で水没、岩脈
- 15 ランク
III
- 16 その他
特になし
- 17 参考文献
 久保誠二・中庄村八・小山和久・高橋陽一, 1993,
地形・地質(吾妻渓谷周辺とその南西).
長野原の自然, 長野原町, 3-89.
 中庄村八, 1986, 群馬県北西部の吾妻川中流域に
分布する新第三系—特に中新世後期の陥没盆
地について, 地球科学, 40, 238-254.
- 18 記入者名
中庄村八
- 19 添付図表等
- 
- 
- 吾妻峠

1 コード番号

1001005

2 都道府県名

群馬

3 名称

あまが池「湧水池」

4 所在地

群馬県佐波郡東村上田269-2

5 目標物からの方位・距離

佐波郡東村役場より北西へ1.8km

6 2.5万分の1地形図

大湖

7 対象地面積

700m²

8 概説

佐波郡東村には、あまが池をはじめ天神沼・西小保方沼・五反田沼・陣家沼・御手洗沼・磯沼などの溜池がある。これらの多くは、大間々扇状地の扇端付近に源を発する湧水をもとに造られた灌漑用の溜池で、古くから利用されている。湧水は、赤城南面や大間々扇状地上に降った天水起源である。湧き出した地下水は、下流に向かって細長い谷を形成しながら南流しているので、溜池はこの細長い谷の最上流部にあることが多い。あまが池は、この典型的な例で、直径約10mの丸い形をしている。この池の湧水量は、周辺の工業団地の開発などの影響を受けてやや減少傾向にあり、以前のような間欠的な気泡の吹き出しが見られなくなってきた。現在の湧水量は、1日約500~1500m³である。

この池の周囲には、六道遺跡・原之城遺跡・十三宝塚遺跡などの古代遺跡があり、この湧水が古代から人々の生活に深く結びついていたことがわかる。

あまが池は、清水が豊かに湧き出ている貴重な自然遺産の一つである。

9 詳細説明

同上

10 現況

あまが池周辺は、水田が多く人家は少ない。開発は緩やかに進行中であるが、現状では生活排水や工場排水などが流れ込む心配はない。池の周囲には、

コンクリートの護岸と橋が回らされ、土砂の流れ込みや危険の防止に役立っている。

11 文化財指定状況

村指定天然記念物 880304

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

国

14 キーワード

灌漑用の溜池、大間々扇状地、扇端、古代遺跡

15 ランク

I

16 その他

今後、池周辺や大間々扇状地の開発が進むにつれ地下水位が低下し、湧水量の減少が心配される。

17 参考文献

小川大和, 1998, 湧水あまが池一村指定天然記念

物一、群馬歴史散歩, 148, 39-40.

新田郡東村誌刊行委員会, 1984, 自然編一村の水

利一、新田郡東村誌, 40-52.

18 記入者名

橋本利雄

19添付図表等



あまが池

- 1 コード番号
1001006
- 2 都道府県名
群馬
- 3 名称
荒船山
- 4 所在地
群馬県甘楽郡下仁田町
- 5 目標物からの方位・距離
県境稜線上
- 6 2.5万分の1地形図
荒船山、信濃田口
- 7 対象地面積
約 4 km²
- 8 概説
荒船山は山頂部が平坦で、長く、周辺の山々に比べて、きわだつスカイラインをなしている。
- 9 詳細説明
荒船山とその周辺は、本宿層によって構成されている。山体の下部にはほぼ水平に、上部湖成層と呼ばれる凝灰岩層が堆積している。その上を流動性に富むガラス質安山岩溶岩がおおっている。そのため山頂部に平坦面が形成された。この溶岩が侵食に抗して現在の台地状の地形が残存していると考えられる。
- 10 現況
植物や動物についてもかなりの変貌を遂げている。失われた花木類、清流、水源地、そこに生息した動物等々。さらにまた、信仰の対象として建てられてきた小さな社や石仏までが消失しているものがある。
- 11 文化財指定状況
未指定
- 12 他の法令等による指定状況
妙義荒船佐久国定公園
- 13 土地所有者・形態
不明
- 14 キーワード
山頂が平坦な山、本宿層、ガラス質安山岩溶岩、荒船山
- 15 ランク
III
- 16 その他
特になし
- 17 参考文献
本宿団研グループ、1970、本宿グリーンタフ層の層序学的研究、地団研専報16、p1~12.
- 18 記入者名
茂木伊一
- 19 添付図表等
- 
- 

荒船山

1 コード番号

1001007

2 都道府県名

群馬

3 名称

新巻平石の甌穴

4 所在地

群馬県吾妻郡東村新巻

5 目標物からの方位・距離

J R 市城駅より南西1,500m 地点

6 2.5万分の1地形図

金井

7 対象面積

400m²

8 概説

吾妻川の河床より10mほど高い流紋岩（ないし石英安山岩）の上面に、形成されている。甌穴は、10数個確認でき、大きさも数cmから50cm大まである。流紋岩は、小野上累層の下市城角砾岩層に貫入する岩脈に相当し、鮮新世-前期更新世の活動とされる（小野上團研グループ、1988）。

9 詳細説明

8 に同じ

10 現況

林の中に存在

11 文化財指定状況

村指定天然記念物 930628

12 他の法令等による指定状況

新巻区長、共有地

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

甌穴、差別浸食、吾妻川

15 ランク

I

16 その他

特になし

17 参考文献

小野上団体研究グループ、1988、群馬県小野上地域の地質-関東平野北西縁における前期更新

世堆積盆地の形成について-、地球科学、42、

109-123.

18 記入者名

中庄村八

19 添付図表等



新巻平石の甌穴

1 コード番号

1001008

2 都道府県名

群馬

3 名称

石樋（いしどい）

4 所在地

群馬県吾妻郡嬬恋村大字田沢

5 目標物からの方位・距離

嬬恋村営バラギスキーリゾート入口より西方約0.8km

6 2.5万分の1地形図

四阿山

7 対象面積

約3,000m²

8 概説

石樋は、宇田沢（うたんざわ）の河床に下刻されずに残った滝や連続する早瀬である。岩盤は、四阿火山から噴出した安山岩質の溶岩である。

9 詳細説明

所在地は、四阿火山の山体標高1,420~1,450m付近、馬洗井戸川支流宇田沢に位置する。岩盤は、約250m連続し、最下流部は落差約5mほどの滝となっている。河床は、5°前後の緩傾斜の岩盤からなり、石でできた樋のようであることから「石樋（いしどい）」と呼ばれている。

岩盤となっている溶岩は、太田（1955）によると四阿火山から噴出した上の貝溶岩である。この溶岩は火口より東方に流下し、嬬恋村上の貝集落の北~北西付近で停止し、溶岩台地地形及び、溶岩流末端の急崖地形がよく保存されている。石樋付近の山体斜面は、その後に噴出した四阿溶岩が広く分布しているが、河床部分は上の貝溶岩からなる。

溶岩は、両輝石安山岩であり、部分的に板状節理が発達しているが、全体に塊状である。

10 現況

石樋までは、バラギ湖畔の青少年野外活動センターからの約3kmのハイキングコースがあり、夏は清流をもとめるハイカーで賑わう。石樋の入口には嬬恋村により村指定天然記念物であることを表示と休憩所が建てられ、河床に下りる木製の階段も整備

されている。自然の状況は、ほとんど変化が見られない。

11 文化財指定状況

村指定天然記念物 760608

12 他の法令等による指定状況

上信越高原国立公園

13 土地所有者・形態

国有地

管理 嬌恋村

14 キーワード

滝、早瀬、四阿火山

15 ランク

I

16 その他

宇田沢の河水は清冽でイワナ、サンショウウオ、ブナナリア等が生息する。バラギ湖からのハイキングコースは急な斜面もなく、親子連れで楽しむのに適する。また、紅葉のシーズンも渓谷が美しい。

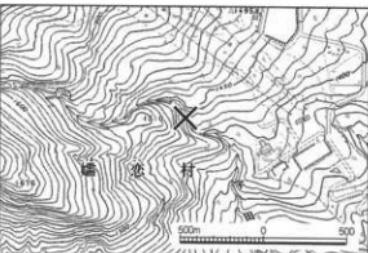
17 参考文献

太田良平・片田正人（1955）5万分の1地質図
須坂

18 記入者名

黒岩俊明

19添付図表等



石樋

1 コード番号

1001009

2 都道府県名

群馬

3 名称

碓氷川の水源

4 所在地

群馬県碓氷郡松井田町峠

5 目標物からの方位・距離

碓氷峠の熊野神社大鳥居より東方300m

6 2.5万分の1地形図

軽井沢

7 対象地面積

60m²

8 概説

古来より峠町の集落民の生活を支えてきた水源。深さ30mのすりばち状の凹地にある方4mの女池、男池で水深はともに1m、とくに女池の北東隅からは軽石をふき上げて湧水していて壯觀である。四季水量に変化なく下流には4アールのわさび田をもつ。

9 詳細説明

熊野神社は鎌倉時代以前よりここに鎮座していたので、この池の使用はさらに古代へとさかのばる。歌碑、石神あり。土砂中には土器片や陶磁器片等江戸期のもの多し。ご神水という。

10 現況

ご神水として熊野神社が管理、民間では碓氷川の水源として見学

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

神社庁・建設省

14 キーワード

湧水池、碓氷川の水源

15 ランク

II

16 その他

古代交通路の指標にもなる池

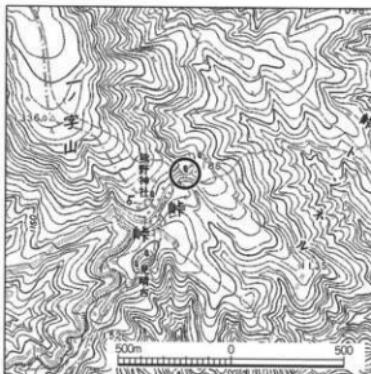
17 参考文献

なし

18 記入者名

小林二三雄

19 添付図表等



男池（手前）、女池（向こう側）



水源下流のワサビ

1 コード番号

1001010

2 都道府県名

群馬

3 名称

おいぬあな

生犬穴の鍾乳洞

4 所在地

群馬県多野郡上野村大字乙父中越沢

5 目標物からの方位・距離

「懲懲の園」の南方約750m

6 2.5万分の1地形図

浜平

7 対象地面積

3,000m²

8 概説

生犬穴は、奥多野地域で不二洞についておおきい鍾乳洞である。秩父南帯の石灰岩中に形成されている。内部には鍾乳洞や石筍・石柱・フローストーンが見られる。

9 詳細説明

奥行き約450m、全長90mの縦穴である。林道より約50m登ったところの東側の沢に、幅2m、高さ1.5mの洞口が、西向きに開いている。現在、洞口は保護のために柵で閉鎖されている。発見当時は、鍾乳石・石筍・石柱・フローストーンが無数に並び、大変神秘的な景観であったというが、その後人為的に荒らされたり土砂が流入してしまったために、上記のような措置を執らざるを得なかつたようである。

発見当時、入口から15m位の所に多くの獣骨が発見されたとのことであるが、今はすべて散逸して、無い。1938年、国の天然記念物指定の後、洞内拡張作業中に大きな獣骨が発見され、後にヒグマの骨と判明した。現在の沢の位置より50mほど高いところに洞口があり、その両側にノッチが見られる。

10 現況

現在洞口は閉鎖され、看板は倒れ、その位置もよく分からぬ状態である。一時「生犬穴保存会」が結成され、活発なボランティア活動があったが、今はそれもやや沈静化している。

11 文化財指定状況

国指定天然記念物 381214

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

黒沢 力藏

14 キーワード

鍾乳洞、石灰岩

15 ランク

II

16 その他

入口の閉鎖だけでなく、定期的な保守点検や洞内の調査、周辺の環境整備が望まれる。

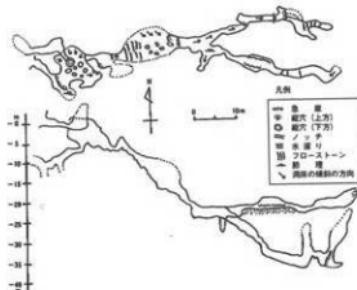
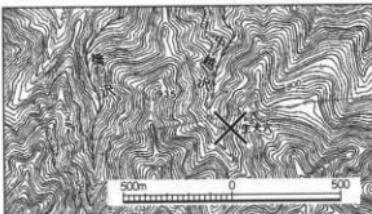
17 参考文献

高橋武夫, 1990, 不二洞・生犬穴・立処山の鍾乳洞、群馬県の貴重な自然、群馬県。

18 記入者名

黒田健次

19 添付図表等



生犬穴の平面図と東西断面投影図
(みやま文庫38 地学日曜散歩より)

1 コード番号

1001011

2 都道府県名

群馬

3 名称

大泉町の古砂丘

4 所在地

群馬県邑楽郡大泉町古海

5 目標物からの方位・距離

東武鉄道小泉線西小泉駅南方約5km

6 2.5万分の1地形図

妻沼・館林

7 対象地面積

約16km²

8 概説

群馬県南東部の平野には内陸の古砂丘が形成されている。本邦では珍しいものである。

9 詳細説明

利根川の河畔砂丘が邑楽郡大泉町古海に始まって東方へ延び、千代田町新福寺・福島、邑楽町十軒・鞍掛から、さらに館林市高根までは連続的に分布している。代表的な砂丘は大泉町に分布しているものである。この砂丘の帶は利根川の古流路に沿って分布している。横断面での砂丘基底部の幅は数100mであるが、千代田町後天神原辺りでは1,000m以上となり、大きく2列になっている。また、比高は数mであるが所によっては10m以上に達するものもある。

表面の傾斜は一般に南方に緩く、北方にやや急になっている。砂丘の延長方向に所々でドーム状の高まりがある。

砂丘の構成堆積物は最下部にやや硬い水平な砂層があり、その上に軽石質のふかふかした感じの砂層（地元ではヌカ砂と呼んでいる）と灰色砂層がドーム状に堆積しており、これを覆って関東ローム層が堆積している。

更新世後期に形成されたと考えられている。

10 現況

工業団地の造成や区画整理、土砂の採掘によって、大分破壊が進んでいる。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

一部保安林の指定あり

13 土地所有者・形態

14 キーワード

古砂丘、昔の利根川の流路

15 ランク

Ⅲ

16 その他

特になし

17 参考文献

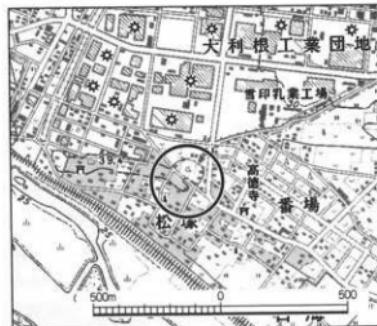
多田文夫, 1947a, 利根川中流部の河畔砂丘、地理評, 21.

多田文夫, 1947b, ローム堆積前の地形、地理評, 21.

18 記入者名

大沢澄可

19添付図表等



古砂丘

- 1 コード番号 応永寺
1001012
- 2 都道府県名 小倉層、洞窟、火山弾、温川
群馬
- 3 名称 14 キーワード
大戸の仙人窟
- 4 所在地 15 ランク
群馬県吾妻郡吾妻町 I
- 5 目標物からの方位・距離 16 その他
JR吾妻線郷原駅より南西4km地点の温川左岸沿 特になし
- い。県道から5分ほど登った岩壁にあり。
- 6 2.5万分の1地形図 17 参考文献
群馬原町 秋間團研グループ・上越南部グリーンタフ團研グ
ループ(1976)群馬県西部の中新世から鮮新
世にかけての火成活動、地球科学, 30, 67-72.
- 中庄村八(1986)群馬県北西部の吾妻川中流域に
分布する新第三系—特に中新世後期の陥没盆地
について、地球科学, 40, 238-254.
- 7 対象地面積 18 記入者名
1,000m² 中庄村八
- 8 概説 19 添付図表等
- 仙人窟は、断崖絶壁に形成された洞窟である。南
西には屏風状の一枚岩に空いた「胎内くぐり」と、
仙人窟を縮小したような岩穴がある。
- 9 詳細説明
- 仙人窟は、今から約300万年前の陸上に流れ出た
溶岩や火山噴出物から構成される「小倉層」からで
きている。また、仙人窟の西方の石尊の山頂付近に
は、小倉層を貫く岩脈が南北方向にのびている。仙
人窟を構成する火山噴出物中の角礫には火山弾も多
く含まれ、給源の火口が近隣に存在していたことが
推定される。
- 仙人窟は幅10m、奥行き10m、高さ3mのへこみ
状の洞窟で、成因としては、現在70mほど下位を流
れている温川が、かつて、この洞窟の地点を河床と
していたときの攻撃面で、浸食作用によって形成さ
れたノッチの名残りと考えられる。
- 10 現況
- 県道からは、石段と歩道を通って仙人窟まで登
れる。
- 11 文化財指定状況
- 町指定名勝 891213
- 12 他の法令等による指定状況
- 不明
- 13 土地所有者・形態



大戸の仙人窟

1 コード番号

1001013

2 都道府県名

群馬

3 名称

大間々扇状地（段丘崖）

4 所在地 群馬県山田郡大間々町

5 目標物からの方位・距離

東武鉄道赤城駅の北北西～南南西、1～2 km

6 2.5万分の1地形図

大間々、桐生

7 対象地面積 20,000m²

8 概説

大間々扇状地は桐原面（上位面）と戻塚面（下位面）から成る合成扇状地である。桐原面には扇央以南に樹枝状浸食谷が発達するのに対し、戻塚面は扇端部に短かく浅い谷が発達する程度で、ほぼ原形を保っている。これらの谷の谷頭部には湧水池があり、戻塚面では標高60 m付近に見事な扇端湧水帯を形成している。

本扇状地の全体は広大な面積を占めるので、地形として明確に把握できる新旧地形面間の段丘崖を対象にする。

9 詳細説明

対象とした段丘崖は大間々町市街地北部から南部の鹿田山北麓に至る約3 km余にわたって非常に明瞭に発達している。段丘崖の戻塚面からの比高は10 m前後あり、北から南へや低くなる。段丘崖は扇端部まで続いているが、鹿田山以南では比高も5 m前後に低下し、次第に緩斜面状になる。

桐原面には、扇状地疊層の上に層厚約5 mのテフラが堆積する。テフラは上州の上部及び中部ローム層で、扇状地疊層直上に中部ローム層基底の湯の口軽石層が堆積する。市街地が立地する戻塚面には層厚1 m前後の上部ロームしか認められない。テフラを除くと、両地形面間の比高は約6 m前後である。

この段丘崖は、大間々扇状地の地形発達史に於いて最も基本的な地形要素である。また、オオママの地名も、崖の古語ママが語源と考えられる。

10 現況

市街地西側に接する崖の北部は林地、役場西の崖斜面には植栽を施している。それより南は裸地で下部に土止め擁壁を施工。上毛電鉄以南はおむね藪で、線路南には昭和30年代の採土跡がある。

11 文化財指定状況 なし

12 他の法令等による指定状況 なし

13 土地所有者・形態

役場西側の植栽斜面は町有地、それ以外は民有地。

14 キーワード

合成扇状地、段丘崖、桐原面、戻塚面

15 ランク I

16 その他

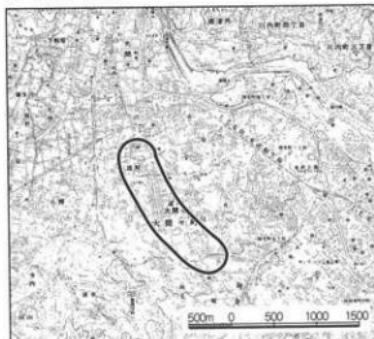
崖の現地形を残すことが望まれる。

17 参考文献

澤口 宏, 1996, 大間々町の地形地質, 大間々町
誌基礎史料編VII, 3-50.

18 記入者名 澤口 宏

19 添付図表等



大間々扇状地の段丘崖

- 1 コード番号 県自然環境保全地域
1001014
- 2 都道府県名 13 土地所有者・形態
群馬 国
- 3 名称 14 キーワード
大峰山の浮島及び湿原植物 浮島、湿原、泥炭層、テフラ
- 4 所在地 15 ランク
群馬県利根郡月夜野町大字小川 Ⅲ
- 5 目標物からの方位・距離 16 その他
JR上越線、上牧駅西方約5km 特になし
- 6 2.5万分の1地形図 17 参考文献
パリノ・サーヴェイ株式会社、1995、大峰山の浮島および湿原植物の自然科学的報告、月夜野町教育委員会。
- 7 対象地面積 18 記入者名
川端經男・久保誠二
- 20,000m²
- 8 概説
- 大峰沼は標高約1000mの山腹にあり、中央部に浮島がある。周辺の地質は、利根溶結凝灰岩と三峰山層の凝灰岩よりなっている。利根溶結凝灰岩は約100mの厚さがあり山頂部を形成している。大峰沼の南西側に切り立った崖をつくっている。三峰山層はその下の緩斜面をつくり、その凹地に大峰沼がある。
- 9 詳細説明
- 大峰沼の中央部に浮島湿原がある。浮島には、イボミズゴケ、ツルコケモモ、ヨシなどが繁茂し、植物相は変化に富む。
- 浮島は6.5mの深さまで泥炭層があり、その下に約2.5mの厚さで、泥炭質のシルトや基盤岩の風化物である砂礫が堆積している。
- 浮島の堆積物中には下部より、浅間草津テフラ(13000~14000年前)、榛名ニッ岳伊香保テフラ(6世紀中葉)、浅間Bテフラ(1108)、浅間Aテフラ(1783)が狭在する。
- 10 現況
- 沼の水は湧水で、春は雪解けによって水位を増し、夏は灌漑用水として利用されているので水位は下がる。
- 11 文化財指定状況
- 県指定天然記念物 521101
- 12 他の法令等による指定状況



大峰山の湿原

1 コード番号

1001015

2 都道府県名

群馬

3 名称

追貝付近の河岸段丘

4 所在地

群馬県利根郡利根村

5 目標物からの方位・距離

吹割の滝から北東3kmまでの片品川・坪川左岸

6 2.5万分の1地形図

追貝、皇海山

7 対象地面積

4 km²

8 概説

坪川の左岸を中心に、見事な河岸段丘が発達している。比較的まとまっており、河岸段丘の例として教科書にも取り上げられている。

9 詳細説明

段丘面の比高、および被覆するテフラ層から、9面の段丘面群に区分できる。上位よりその概要を記す。

(1) 砥山面群 三段の段丘よりなる。最上位面の現河床からの比高は、砥山で約150mである。テフラの被覆関係は、露頭がないため不明である。段丘面は保存されているが、最上位面は沖積堆におおわれ、現河床側に緩く傾斜している。古園原湖を浸食した谷を埋積して形成された段丘である。

(2) 追貝原面 段丘面は一部冲積堆で覆われている。現河床からの比高は追貝原で約125mである。御岳第一軽石層以上のテフラ層におおわれる。

(3) 伊閣面 片品川の上流片品村伊閣付近から、下流の沼田付近まで、良く連続する段丘面である。追貝原面の一部を下刻して形成された。現河床からの比高は追貝原で約110mである。追貝軽石層・中之条火山礫層以上のテフラ層におおわれる。

(4) 平出面 現河床からの比高は追貝で約90mである。八崎軽石層以上のテフラ層におおわれる。

(5) 貝野瀬Ⅰ面群 現河床からの比高は追貝で約50mである。水口軽石層以上のテフラ層におおわ

れている。

(6) 貝野瀬Ⅱ面群 分布が狭く連続性に乏しい。現河床からの比高は追貝で約40mである。白糸の滝軽石層以上のテフラ層におおわれている。

(7) 貝野瀬Ⅲ面群 現河床からの比高は追貝で約30mである。20cmの茶褐色テフラ層におおわれる。

(8) 浮島面群 浮島を形成する面で、貝野瀬Ⅲ面に収束するように見える。更新世テフラは堆積していない。

(9) 低位面群 浮島から大掛にかけて少なくとも5段の段丘が認められる。完新世の段丘群である。

上述のように、9面またはそれ以上の段丘が比較的狭い地域に集中しており、河岸段丘の典型として、注目されている。また、成因については赤城火山の関与も議論され、学術上・景観上きわめて貴重である。

10 現況

段丘面は農地として利用されている。段丘崖は比較的良好に保存されている。利根村でも自然環境保全に取り組んでいるが、日本の典型的な河岸段丘の一つなので、自然に近い状態で保存したい。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

私有地

14 キーワード

河岸段丘、坪川、追貝

15 ランク

IV

16 その他

特になし

17 参考文献

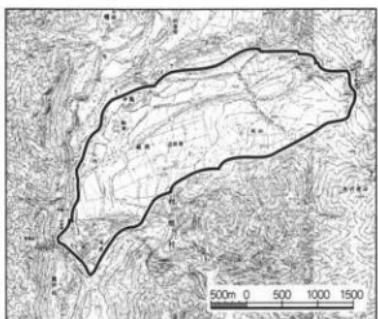
竹本弘幸, 1993, 国指定特別天然記念物・名勝「吹割渓ならびに吹割澤」周辺の地形、天然記念物・名勝吹割渓ならびに吹割澤 地形・地質調査報告書、利根村・教育委員会・吹割渓調査会、1-16.

竹本弘幸, 1998, 利根川水系片品川流域の地形発達史－赤城火山の活動とその影響について

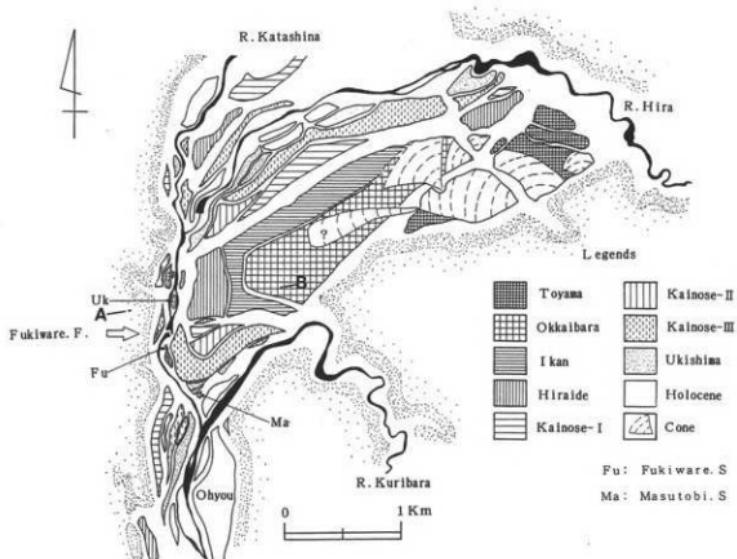
18 記入者名

武藤齊、久保誠二

19 添付図表等



萍川付近の河岸段丘



片品川吹割の滝付近の段丘面分布（竹本, 1993による）

1 コード番号

1001016

2 都道府県名

群馬

3 名称

雄川水源の障子岩

4 所在地

群馬県甘楽郡甘楽町大字秋畠6018-1

5 目標物からの方位・距離

稲舎山頂より南東約1.2km

6 2.5万分の1地形図

神ヶ原

7 対象面積

60,000m²

8 概説

雄川源流の標高900m付近の右岸に、高度差約150mの岩壁があり、地元ではこの岩壁を障子岩と呼んでいる。岩壁の下部及び上部はやや緩やかであるが、中部は垂直で樹木も生えていない。又、岩峰状の部分も見られる。岩壁の岩石を直接確認することは不可能であるが、岩壁直下の転石がチャートが多い事と、対岸から遠望したときの岩壁の色や岩肌の感じから、この岩壁はチャートと思われる。

障子岩の位置は、三波川帯の結晶片岩類と秩父帶北帯の岩石との境界付近にある。この付近での三波川帯は、緑色片岩が多く黒色片岩を挟む。緑色片岩や塩基性凝灰岩は岩質的には柔らかく浸食されやすい。一方、秩父帶北帯の岩石は、層状チャートが多く珪質凝灰岩、粘板岩、砂岩、石灰岩等である。この中で層状チャートは極めて硬いために、浸食には極めて強い。障子岩は岩質の違いによる浸食力に対する抵抗の差によって作られたものである。

9 詳細説明

8に同じ

10 現況

現場は那須林道の終点から上流へ約1.3km遡ったところである。終点から500m付近に砂防堰堤があるが、それより上流には上空に高圧送電線があるのみで人工物はない。周囲はカラマツとヒノキ・スギの植林があるが、手入れも不十分で雑木が大きくなっている。

びている。自然環境は保護されているが、名勝地としての景観は、雑木の成長によって見にくくなっている。林道終点からは、かなりしっかりした踏み跡があり、この地を訪れる人がかなりいるものと思われる。

11 文化財指定状況

町指定名勝天然記念物 731212

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

甘楽町

14 キーワード

緑色片岩、三波川帯、層状チャート、秩父帶北帯

15 ランク

I

16 その他

特になし

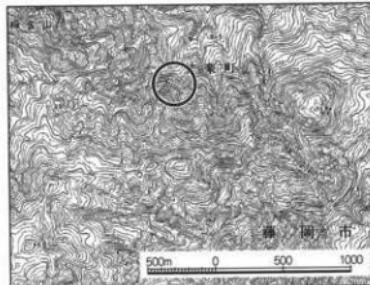
17 参考文献

なし

18 記入者名

高橋武夫

19 添付図表等



障子岩

1 コード番号

1001017

2 都道府県名

群馬

3 名称

尾瀬

4 所在地

群馬県利根郡片品村戸倉
新潟県北魚沼郡湯之谷村
福島県南会津郡檜枝岐村

5 目標物からの方位・距離

片品村戸倉から鳩待峠まで約13km、大清水まで約8km。

6 2.5万分の1 地形図

三平幹、燧ヶ岳、尾瀬ヶ原、至仏山

7 対象面積

124.6km²

8 概説

国の特別天然記念物である尾瀬には本州最大の高層湿原といわれる尾瀬ヶ原や蛇紋岩岩体の至仏山などがあり、複雑で変化に富んだ景勝地であり、多種多様な地形要素と植生が存在する。特に山地帯以上の典型的な垂直分布帯、低層湿原から高層湿原に至る各種の湿原植生、至仏山の蛇紋岩植生は高い植物生態学的な価値を有するだけでなく、多様な植生は多様な動物の生存の基盤となっている。

9 詳細説明

日光国立公園内にある尾瀬は国立公園内の特別保護地区であるとともに、国の特別天然記念物にも指定されている。その範囲は至仏山、燧ヶ岳、アヤメ平、景鶴山などの尾瀬ヶ原や尾瀬沼を囲む稜線の内側で、尾瀬ヶ原から流れる只見川の河床北端は三条ノ滝が境界である。現在ではかけがえのない自然、環境保護の象徴とされているが、それまでには尾瀬の水を発電に利用する計画が再三浮上し、それに反対する環境保護活動が起こり、天然記念物指定を受けた経緯がある。尾瀬ヶ原の標高は1,400m、尾瀬沼は1,665m、アヤメ平1,969m、鳩待峠1,615m、至仏山2,228m、燧ヶ岳2,356mである。

尾瀬の価値を高めたものに、本州最大の高層湿原

といわれる尾瀬ヶ原がある。面積は約86.9km²。燧ヶ岳の噴火によって谷が埋められて平地になり、主にミズゴケからなる泥炭が8,000年以上の時間をして最大5m近く堆積している。泥炭層中には6世紀中頃の株名ニツ岳降下軽石（FP）や約6,300年前の鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）が介在しているのが過去のボーリングから明らかになっている。尾瀬ヶ原にはケルミ、シュレンケ、ブルトといった微地形や池塘が存在し、ミズバショウ、ニッコウキスゲ、ナガバノモウセンゴケなどの多くの植物が自生している。

尾瀬沼は燧ヶ岳が噴火した際の岩なだれにより沼尻川がせき止められできた湖である。

西端になる至仏山は蛇紋岩でできている山であり、蛇紋岩変形植物であるホソバヒナウスユキソウ、シブツアサツキなどやオゼソウなどの蛇紋岩地残存植物といった特徴的な植物が見られる。

尾瀬には北方系の植物152種を含む902種もの植物が生育し、また尾瀬で発見されたオゼイトンボなど29種の北方系のトンボが発見されている。

最近の研究により、燧ヶ岳は約500年前に噴火した活火山であることがわかっている。

10 現況

尾瀬は国の特別天然記念物であり、自然保護の代名詞とも呼ばれるだけあって破壊からは逃れていく。また環境庁や尾瀬林業の職員、多くのボランティアによって木道やゴミは整備されている。近年入山者が急増し、オーバーユースが叫ばれている。訪れる者のモラルの低下が心配され、尾瀬保護財団が啓発活動を行っている。

11 文化財指定状況

国、尾瀬、天然記念物、560809

国、尾瀬、特別天然記念物、600325

12 他の法令等による指定状況

日光国立公園、内務省、341204

日光国立公園特別地域、厚生省、380513

日光国立公園特別保護地区、厚生省、531222

水源かん養保安林、農林水産省、060914

鳥獣保護区、環境庁、811115

保健保安林、農林水産省、831101

13 土地所有者・形態

東京電力㈱、私有地、国有林

14 キーワード

尾瀬、尾瀬ヶ原、至仏山、燧ヶ岳、ミズバショウ
蛇紋岩、湿原

15 ランク

V

16 その他

特になし

17 参考文献

沼田 真, 1998, 自然保護ハンドブック, 朝倉書店.

菊池慶四郎・須藤志成幸, 1991, 永遠の尾瀬 自然とその保護, 上毛新聞社

自然保護年鑑編集委員会, 1996, 自然保護年鑑,
4. 自然と共に生きる時代を目指して, 日正社.

18 記入者名

田中直樹

19 添付図表等



1 コード番号

1001018

2 都道府県名

群馬

3 名称

小平鍾乳洞

4 所在地

群馬県山田郡大間々町小平

5 目標物からの方位・距離

わたらせ渓谷鉄道大間々駅から北東へ4.5km (猩穴)

6 2.5万分の1地形図

大間々

7 対象地面積

不明

8 詳細説明

小平鍾乳洞は内部に手すりや階段、照明などが設置され、一般に公開されているが、鍾乳洞を特徴づける鍾乳石などの二次生成物はよく保存されている。

9 詳細説明

大間々町小平には、猩穴(まみあな)と茂木の二ヶ所に鍾乳洞がある。他にも鍾乳洞があるが、ごく小さい。小平の鍾乳洞といえば、一般にはこの猩穴を指している。

猩穴の鍾乳洞は、1988年に公開された。公開されている部分は、全長93mで、鍾乳石・石筍・リムストーン・フローストーンなどは、ほぼそのまま保存されている。この鍾乳洞は、古生代石炭紀の石灰岩層中にある。この石灰岩層は、ごくわずか化石を含んでいる。

もう一つの、猩穴よりも北に位置する茂木の鍾乳洞は、ほとんど知られていない。こちらは、古生代ペルム紀の石灰岩層中にある。猩穴の鍾乳洞に較べれば、ずっと小規模である。この鍾乳洞で特筆すべきは、入口付近にあるフズリナチャートである。フズリナ石灰岩が、チャート質(二酸化ケイ素)に置換されたもので、珍しい。

10 現況

観光化され洞内がよく保存されている。

11 文化財指定状況

大間々町指定天然記念物 880120

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

大間々町

14 キーワード

鍾乳洞、石灰岩、鍾乳石、フズリナチャート

15 ランク

I

16 その他

茂木の鍾乳洞は個人が所有する土地にあるが、フズリナチャートは、何らかの形で保存したい。

17 参考文献

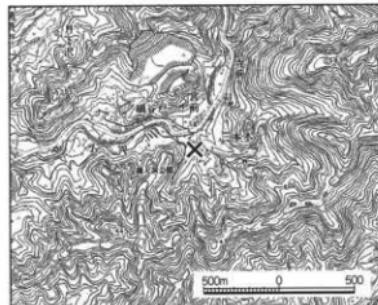
大間々町誌基礎資料Ⅲ, 1996, 大間々町の鍾乳洞,

「大間々町の地形・地質」, 107-112.

18 記入者名

藤井光男、橋 伸一郎

19 添付図表等



小平鍾乳洞

1 コード番号

1001019

2 都道府県名

群馬

3 名称

かに石のおう穴

4 所在地

群馬県北群馬郡小野上村村上3752-3

5 目標物からの方位・距離

JR小野上駅より南南西1,500m地点。小野上役場の敷地内

6 2.5万分の1地形図

金井

7 対象地面積

100m²

8 概説

吾妻川の河床より10mほど高い輝石安山岩溶岩の緩やかな起伏をもつ面に、形成されている。窓穴は、数個確認でき、大きさも数10cm大である。輝石安山岩溶岩は、小野上累層の岩井堂凝灰角砾岩部層に相当し、鮮新世-前期更新世の活動とされる（小野上團研グループ、1988）。

9 詳細説明

8に同じ

10 現況

小野上役場の敷地内に存在。かに穴自体は約1.5mの深さがある。

11 文化財指定状況

村指定天然記念物 740821

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

小野上村

14 キーワード

窓穴、差別浸食

15 ランク

I

16 その他

特になし

17 参考文献

小野上團研グループ（1988）群馬県小野上地城の地質－関東平野北西縁における前期更新世堆積盆地の形成について－。地球科学, 42, 109-123.

18 記入者名

中庄村八

19添付図表等



かに石のおう穴

1 コード番号

1001020

2 都道府県名

群馬

3 名称

片品川の河岸段丘

4 所在地

群馬県利根郡昭和村

5 目標物からの方位・距離

関越高速道路沼田インターの南1.5kmから東4kmの範囲

6 2.5万分の1地形図

沼田

7 対象地面積

約4km²

8 概説

利根郡昭和村の生越・貝野瀬地域には、規模こそ小さいが、数段の見事な河岸段丘が発達している。特に関越高速片品川橋の上流地域がすばらしく、教科書にもしばしば取り上げられている。最上位の平坦面は赤城火山の火山麓扇状地面で、これと片品川との間には、上位から伊闇面・貝野瀬Ⅰ面・貝野瀬Ⅱ面・貝野瀬Ⅲ面・完新世段丘面群の段丘面が発達している。

9 詳細説明

伊闇面：片品村伊闇町を模式地とし、片品川から利根川の子持村付近まで追跡できる連続性の良い段丘である。本地域の段丘では最も規模が大きく、最大幅650m、東西に約3km広がっている。伊闇面の東端には生越の集落がある。片品川からの比高は生越付近で120mである。中之条火山疊層より上位の関東ローム層を堆積している。

貝野瀬Ⅰ面：片品川、および利根川の吾妻川合流点付近まで、断続的に発達している段丘面である。調査地域では、伊闇面に次ぐ広い段丘面をもち、河床からの比高は貝野瀬で80mである。三原田軽石層以上の関東ローム層に覆われている。

貝野瀬Ⅱ面：貝野瀬Ⅰ面を下刻する過程で造られた浸食段丘である。分布は狭く、貝野瀬集落の東に見られる。河床からの比高は貝野瀬で65mである。

板鼻褐色軽石層以上の関東ローム層をのせている。

貝野瀬Ⅲ面：片品川本流に沿って比較的よく連続する。河床からの比高は糸井で50mある。白糸の滝軽石層以上の関東ローム層に覆われている。

完新世段丘面群：貝野瀬Ⅲ面より低位の段丘群で、1~3面が認められる。関東ローム層の被覆はない。

10 現況

それぞれの段丘面の大部分は耕作地として利用されており、この村の主な生産地帯の一つになっている。また、生越・貝野瀬・糸井の集落も面上に発達している。人工改変や浸食などによる破壊は少なく、地形の保存は良い。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

私有地ほか

14 キーワード

河岸段丘、伊闇面、貝野瀬Ⅰ面、貝野瀬Ⅱ面、貝野瀬Ⅲ面、片品川

15 ランク

V

16 その他

この段丘はフランスの教科書にも掲載されているという。美しい段丘を保存するためには、地形面を著しく破壊するような構造物の構築や大規模な土木工事の規制などが必要である。

17 参考文献

高田将志, 1984, 片品川流域における段丘形成過程について, 関東平野, 1, 11-16.

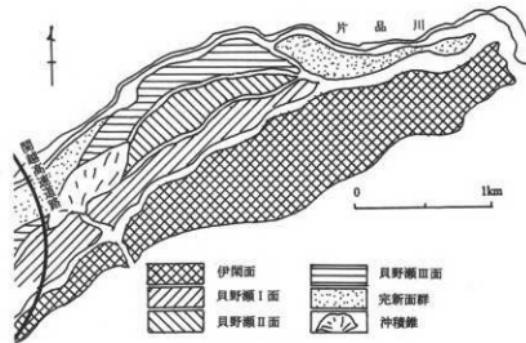
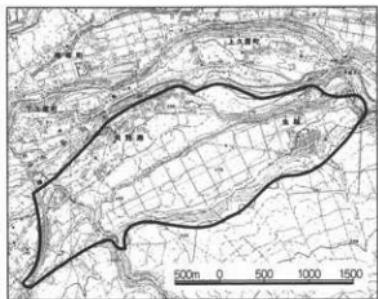
竹本弘幸, 1985, 中棚遺跡, 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書「立地と歴史環境」, 昭和村教育委員会, 8-13.

竹本弘幸, 1998, 利根川水系片品川流域の地形発達史-赤城火山の活動とその影響について
一、地理学評論, 71A, 783-804.

18 記入者名

久保誠二

19 添付図表等



生越・貝野瀬付近の段丘面分布図



片品川の河岸段丘

1 コード番号

1001021

2 都道府県名

群馬

3 名称

鍋川の河岸段丘

4 所在地

群馬県藤岡市、多野郡吉井町、甘楽郡甘楽町、富岡市、甘楽郡下仁田町

5 目標物からの方位・距離

上信電鉄の山名駅から千平駅までの沿線

6 2.5万分の1地形図

松井田、富岡、高崎、下仁田、上野吉井、藤岡

7 対象地面積

72ha

8 概説

下仁田町馬山から藤岡市上落合にかけての鍋川流域には、上下2段の河岸段丘地形が発達している。この河岸段丘は典型的な非対称段丘で、右岸地域には上下2段の段丘面が発達しているが、左岸地域には一部の地域を除いて、上位段丘面はほとんどない。

上位段丘には厚さ数m～10数mの砂礫層が堆積しており、堆積段丘の性格があるが、下位段丘の砂礫層はせいぜい2mで浸食段丘である。上位段丘には砂礫層の上に上部ロームおよび関東ローム起源と考えられる粘土層が堆積しており、また、上部ロームの下位には、何カ所かでA Tも確認されている。

9 詳細説明

8に同じ

10 現況

上位面に上信越自動車道が通り、それに伴う開発も多少見られるが、大きな地形があるので、地形景観を変えるほどではない。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

非対称段丘、上部ローム層、A T、鍋川

15 ランク Ⅲ

16 その他

特になし

17 参考文献

町田 貞, 1963, 河岸段丘, 古今書院.

富岡市史編さん委員会, 1987, 富岡市史自然編,

富岡市.

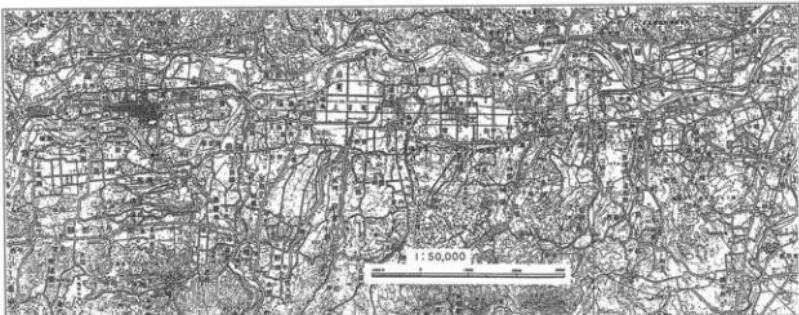
18 記入者名

高橋武夫

19添付図表等



鍋川の河岸段丘



1 コード番号

1001022

2 都道府県名

群馬

3 名称

神流川の蛇行

4 所在地

群馬県多野郡上野村

5 目標物からの方位・距離

上野村役場より西方へ4km、東方へ2kmの間

6 2.5万分の1 地形図

十石峠、神ヶ原、浜平、両神山

7 対象地面積

6 km²

8 概説

神流川上流域の上野村檜原から新羽にかけての6kmは、神流川が激しく蛇行している。蛇行帯軸の方向はN85°Wを示し、この間に5回の蛇行が見られる。蛇行区間は、山中地溝帯白亜系の砂岩泥岩互層が分布している地帯で、この南・北地域に広く分布する秩父帯の岩石とは岩質的に異なる。

9 詳細説明

蛇行は神流川が山中地溝帯白亜系を斜めに横切るところで発達している。一方、その北方及び南方には秩父帯が広く分布する。両者の岩質の違いによる流水に対する抵抗力の差が、蛇行の主たる原因と考えられる。また、白亜系には、北北東-南南西方向の断層が卓越

しており、これも蛇行のきっかけとなったと思われる。

10 現況

護岸工事が施されているところもあるが、多くは自然の状態である。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

14 キーワード

蛇行帯軸、屈曲示数、山中地溝帯白亜系、秩父帯、神流川

15 ランク

Ⅲ

16 その他

特になし

17 参考文献

高山茂美、1974、河川地形、共立出版。

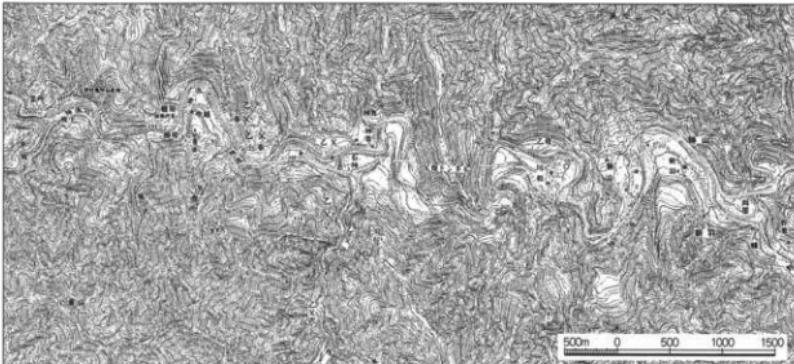
18 記入者名

高橋武夫

19 添付図表等



神流川の蛇行



1 コード番号

1001023

2 都道府県名

群馬

3 名称

倉渕村権田字上久保の出水

4 所在地

群馬県群馬郡倉渕村大字権田字上久保

5 目標物からの方位・距離

権田郵便局西の村道を上久保に登り、さらに東方に登ると右下に深い谷が見える。ここが出水である。権田の郵便局より約2kmである。

6 2.5万分の1地形図

榛名湖

7 対象面積

300m²

8 概説

村道より30m東方に急崖を下ると幅10mの水路を深さ5cm内外の美しい水が流れている。湧出孔は榛名火山の泥流と思われる巨石の間にあって、こんこんと水温13℃の地下水を湧出している。冬季間はもうもうと水蒸気が立ち込めて特有の景観を示している。

9 詳細説明

現在は村の用水や簡易水道に使われているが、これらの工事の際、土師器類が出土したと伝えられている。江戸期の石仏もある。

10 現況

湧水孔付近は自然のままであるが下流にはパイプ類による取水が行われている。流路は比較的硬い岩盤で浸食は少ないが周辺の急崖は表土が崩れている。長期的には崩落防止の措置が必要。湧水量は多い。淡水魚多し。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

水路は建設省、周辺は民有地

14 キーワード

榛名火山、泥流、湧水

15 ランク

I

16 その他

榛名山北麓の箱島の湧水と対称する位置にある。

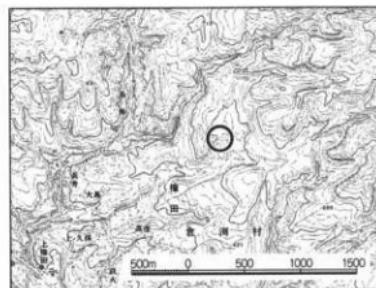
17 参考文献

なし

18 記入者名

小林二三雄

19 添付図表等



向かって右湧水池



向かって左湧水池

1 コード番号

1001024

2 都道府県名

群馬

3 名称

沢渡の仙人窟

4 所在地

群馬県吾妻郡中之条町

5 目標物からの方位・距離

JR吾妻線中之条駅より北西10km地点の上沢渡川左岸沿い。上沢渡川支流の唐松沢上流部の標高約880mに位置する。

6 2.5万分の1地形図

小雨

7 対象面積

600m²

8 概説

仙人窟は、断崖絶壁に形成された洞窟である。直下には落差30mほどの仙人の滝がある。この仙人の滝は、仙人窟登山道の途中から少し谷方面に下って見ることができる。

9 詳細説明

仙人窟は、流紋岩の貫入岩体中にできている。流紋岩は、塊状および角礫状からなり、変質作用を受け、一部で粘土化している。この岩体の形成時期は、約1000万年前の中期中新世と考えられている。

仙人窟は幅10m、奥行き60m、高さ2-5mのL字型の洞窟で、入り口が二つに分かれている。洞窟内にはコウモリが生息している。洞窟底には、流水が流れ、流紋岩の角礫や亜角礫が散在している。洞窟の形成は、かつて、この洞窟の高さのところを沢が流れているときに、河床面の低下に伴い流紋岩体内の脆弱部を地下水が流れるようになり、その浸食作用により現在の洞窟となったと考えられる。

10 現況

登山道は整備されていて、道標、ベンチ、東屋などもある。仙人窟の入り口には、手すりも設けられており安全性を確保している。

11 文化財指定状況

なし。

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

中期中新世の流紋岩、貫入岩、洞窟、コウモリ、仙人の滝

15 ランク

I

16 その他

同名の吾妻町大戸の仙人窟よりも大規模

17 参考文献

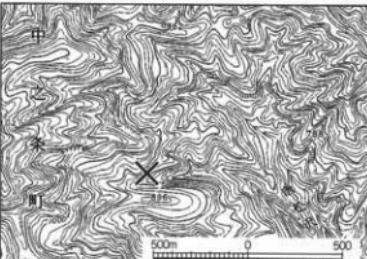
中村庄八、1986、群馬県北西部の吾妻川中流域に分布する新第三系—特に中期後期の陥没盆地について、地球科学、40、238-254。

中村庄八・中村正芳・上越南部グリーンタフ団研グループ、1982、群馬県北西部の四万湖周辺に分布する新第三系、地質学会第89年学術大会演旨、168。

18 記入者名

中村庄八

19 添付図表等



内部から入口を見る

- 1 コード番号 1001025
- 2 都道府県名 群馬
- 3 名称 さんばせき
三波石峡
- 4 所在地 群馬県多野郡鬼石町大字諱原字柏ヶ舞
- 5 目標物からの方位・距離 下久保ダムの下から矢納橋付近までの、その間約2 kmの神流川の谷。
- 6 2.5万分の1地形図 鬼石
- 7 対象地面積 200,000m²
- 8 概説 神流川の中流にあって、下久保ダムからその下流約2 km間の渓谷である。三波石と呼ばれる緑色岩の大露頭と大転石が渓谷にひろがり、美しい岩石美・渓谷美が展開している。
- 9 詳細説明 三波石峡には水流に磨かれた緑色岩が、露頭や大転石として多数散在している。加えて石灰岩やチャートなど他の岩石類もあって、変化に富んでいる。また峡中には大小の洞穴、おう穴などが存在し、流れる急流・深淵、岸辺の風景などとあいまって、景勝の地を成している。48石を名石として選び、名称が付けられている。三波石峡が名勝地として知られるようになったのは、江戸時代初期のことと、後期には訪れる旅人を案内して、見物料を取っていた記録がある。
- 10 現況 見学コースが設定され、道標、木道、階段などが設置されている。
- 下久保ダム建設後、水量が激減し、景観が著しく悪化していたが、最近、回復策が検討されている。
- 11 文化財指定状況 国指定名勝および天然記念物 570703
- 12 他の法令等による指定状況 左岸が地すべり地域に指定されている。
- 13 土地所有者・形態 国有地？ 河川敷
- 14 キーワード 三波石峡、三波石、緑色岩
- 15 ランク IV
- 16 その他 将来的にも現状のような施策が望ましい。
- 17 参考文献 牧本博・竹内圭史, 1992, 寄居地域の地質・地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 通商産業省工業技術院地質調査所, 136p.
- 群馬県, 1994, 土地分類基本調査 (国土調査), 万場・寄居, 群馬県。
- 18 記入者名 吉羽興一
- 19 添付図表等



三波石峡

1 コード番号

1001026

2 都道府県名

群馬

3 名称

四万の窓穴

4 所在地

群馬県吾妻郡中之条町四万3520

5 目標物からの方位・距離

四万温泉南の秋鹿

6 2.5万分の1地形図

中之条

7 対象地面積

1,000m²

8 概説

四万川の河床で輝石安山岩岩体の緩やかな起伏をもつ面に形成されている。窓穴は、数個確認でき、大きさは数10cmから数m大である。輝石安山岩岩体は、一部で半深成岩相を呈し、貫入岩体の一部とされる。

9 詳細説明

概説と同じ

10 現況

駐車場完備、案内板設置、歩道が整備されている。

11 文化財指定状況

県指定天然記念物 711222

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

建設省

14 キーワード

窓穴、差別浸食

15 ランク

I

16 その他

特になし

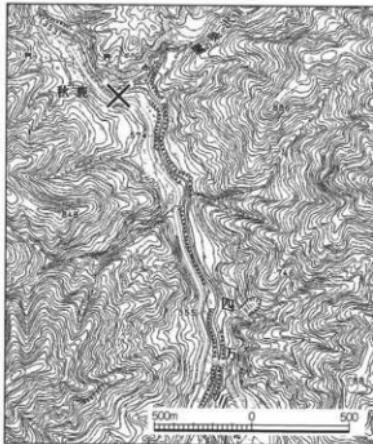
17 参考文献

なし

18 記入者名

中村庄八

19 添付図表等



四万の窓穴

1 コード番号

1001027

2 都道府県名

群馬

3 名称

諏訪峠

4 所在地

群馬県利根郡水上町

5 目標物からの方位・距離

J R 水上駅より南2,000m地点。

6 2.5万分の1地形図

水上

7 対象地面積

70,000m²

8 概説

群馬県を代表する水上温泉の温泉街から南に下った利根川ぞいの峡谷で、約1kmほどのあいだ、緑色に変質した海底火山の火山灰（グリーンタフと呼ばれている）や流紋岩、安山岩、玄武岩などの各種岩脈が観察できる。

9 詳細説明

諏訪峠の地質は、上流から下流にかけて4区分できる。これらの地質状況は、河床の形に微妙に反映されている。笛吹橋付近は、不均質な岩石からできているため、河床が急にえぐられている。それに対して、その下流の球顆流紋岩質火山岩類のところは、岩質が均質で、河床が比較的平坦になっている。また、河床の岩盤には窓穴があちこちにつくられている。頭上にかかる諏訪峠大橋の下流付近は、柔らかい岩質で、比較的広い幅の河床をつくっている。その下流一帯は、岩脈や岩体など、比較的堅い岩質のため、川幅も狭く急流となっている。

また、この付近には、青緑色をした軽石凝灰岩層が露出している。この地層は、今から約1500万年前に、海底で発生した火山活動に関係してつくられたグリーンタフ層である。

10 現況

銚子橋と笛吹橋の区間の利根川左岸の遊歩道にそって、渓谷美を満喫しながら進むことができる。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

建設省

14 キーワード

グリーンタフ層、渓谷、球顆流紋岩、窓穴、岩脈

15 ランク

II

16 その他

遊歩道にそって、渓谷美を満喫しながら進むことができる。

17 参考文献

中村正芳・中庄村八・東宮英文、1994、変化に富む利根川上流の景観・諏訪峠、群馬評論、60、100-101。

野村 哲編、1998、諏訪峠、新版・日曜の地学、134-138。

高橋雅紀・齊藤和男・梅津浩之、1991、群馬県北部に分布する中新統の地質と年代、地球科学、45、435-452。

18 記入者名

中庄村八

19 添付図表等



諏訪峠

1 コード番号

1001028

2 都道府県名

群馬

3 名称

仙ヶ滝の岩床

4 所在地

群馬県碓氷郡松井田町土塙

5 目標物からの方位・距離

J R 信越線西松井田駅の北西約6 km

6 2.5万分の1地形図

三の倉

7 対象面積

100m

8 概説

仙ヶ滝は岩床によってつくられた滝で、滝つばの周辺には不動尊をはじめとする修驗の神々の石造物が立ち並んでいる。

9 詳細説明

仙ヶ滝は九十九川の上流にあって、厚さ7 mの硬い灰黒色の岩体の上面から水が落下し、15 m下に広い滝つばをつくっている。下盤には上部板鼻層の疊岩、泥岩があり、疊岩と泥岩の間に厚さ30 cmの亜炭層を挟んでいる。この亜炭層はかって採掘され、その坑道が滝下に残っている。岩体の上盤は砂岩で、その上に疊岩がのっている。滝をつくる岩体は硬い灰黒色の多孔質な安山岩質玄武岩である。柱状節理や板状節理がよく発達している。

仙ヶ滝は容易に訪れる事ができ、地学的研究ならびに学習をするうえで貴重である。また古くから信仰の対象となっており、最近では群馬百景の候補となつたこともあり、身近な存在である。

10 現況

松井田町が滝への道路整備、橋の架け替え、立て看板や駐車場の設置などを行つて、観光開発に努めている。また、山里の集落に近く、周辺住民が交替で清掃・整備にあたつている。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

滝下の九十九川右岸は土塙1区共有林、左岸は桜井勤氏の個人所有。

14 キーワード

滝、岩床、節理、玄武岩

15 ランク

II

16 その他

特になし

17 参考文献

秋間団研グループ、1971、群馬県安中市北部の新第三系、地球科学、25、219-226。

磯貝基一・周藤賢治・富樫敬吾、1976、群馬県南部西部の秋間層、相間川層および剣ヶ峰層中の火山岩類の岩石学的研究、岩石鉱物鉱床学会誌、71、50-59。

18 記入者名

磯貝基一

19添付図表等



仙ヶ滝の岩床

1 コード番号

1001029

2 都道府県名

群馬

3 名称

千人隠れ

4 所在地

群馬県高崎市寺尾町

5 目標物からの方位・距離

J R 高崎駅の南西 5 km

6 2.5万分の1地形図

富岡

7 対象地面積

2,500m²

8 概説

衣沢川の上流、吉井町と高崎市の境界部に千人隠れがある。ここは衣沢川が板鼻層を走行方向に浸食している場所で、峡谷状をなしている。上部は蛇行した川の影響と硬い礫岩のため、ひさし状に突き出しオーバーハングの状態になっている。

9 詳細説明

付近一帯は新第三系中新統の板鼻層中部層が分布しており、泥岩、砂泥互層、礫岩の重なりを基本とする堆積サイクルを形成している。千人隠れは深さ15mほどの狭い谷を形成しており、谷壁は上方粗粒化堆積サイクルを構成している礫岩、砂泥互層よりなっている。このうち、上部の礫岩はひさし状に露出しているが、砂泥互層の大部分は崩積物に被われている。礫岩と下位層との間には、小規模な侵食面が見られる。また、礫岩直下のシルト層中には、多数の生痕が観察される。

地質時代の三角州の前置層と頂置層の構造や形成時の環境を知る上で貴重な露頭である。

10 現況

史跡として立て看板が設置され、現地までの歩道が整備されている。地形的に崩壊の恐れはある。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

千人隠れ、生痕、堆積サイクル

15 ランク

II

16 その他

案内板によれば、戦国時代などに、地域住民が潜んで戦乱を避けたことから、この名が付いたという。

17 参考文献

久保誠二・角田寛子、群馬県高崎市西方に分布する板鼻層の堆積サイクル、地質学雑誌、79, 687-697.

18 記入者名

山岸勝治

19添付図表等



千人隠れ

1 コード番号

1001030

2 都道府県名

群馬

3 名称

谷川連峰

4 所在地

群馬県利根郡水上町土合、湯桧曾、谷川、利根郡新治村赤谷

5 目標物からの方位・距離

群馬県北西部県境稜線の中部

6 2.5万分の1地形図 水上、茂倉岳、三国峠

7 対象面積 約30km²

8 概説

谷川連峰は群馬・新潟県境の大分水嶺の一角を成す。急峻な山岳地域である。標高はそのほとんどが2,000mに満たないものの、多雪のため森林の分布限界が低下し、アルペン的景観がある。また地質的にみると、古生代から新生代新第三紀にわたる多種の岩石が分布している。地域内の地形も、地質を反映して変化に富んだものとなっている。

9 詳細説明

東面地域では山体下部には広く石英閃綠岩が分布するが、上部にはかこう岩および蛇紋岩が分布し、一部に結晶片岩がみられ、また一ノ倉岳および茂倉岳の山頂部付近の狭い範囲に新第三紀の凝灰質岩類がのっている。北部ではかこう岩中に玄武岩、輝緑岩およびはんれい岩などの岩脈が多数貫入している。この地域の山体上部はとくに急峻で、岩崖が連なっている。降雪量が多いため、多発する雪崩によつて、沢筋は植生に乏しく、スラブ状の個所もみられる。

南面地域には、新第三紀層および流紋岩、玄武岩、石英閃綠岩などが分布する。稜線部は風衝低木林や笹原となっており、ところどころ湿原がみられる。

多雪に起因する階段状微地形などが、茂倉岳、赤谷川源流、平標山周辺などにみられる。

10 現況

天神尾根をはじめとして、稜線上の登山者の増加によって登山道が拡大している個所が目立つ。とく

に谷川岳山頂周辺は表土が流失し、岩礫が広く露出している。

11 文化財指定状況 未指定

12 他の法令等による指定状況

上信越高原国立公園

13 土地所有者・形態 国有林

14 キーワード

アルペン的景観、谷川岳

15 ランク IV

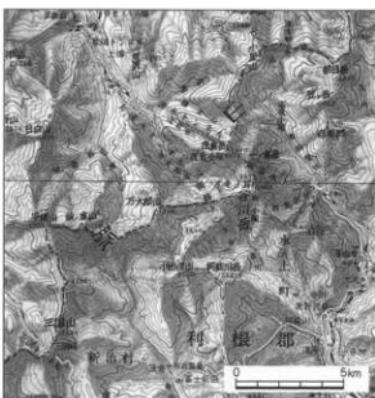
16 その他 なし

17 参考文献

小林二三雄ほか, 1992, 谷川連峰学術調査報告書, 群馬県, 220p.

18 記入者名 小林二三雄

19 添付図表等



谷川連峰概図



谷川岳

1 コード番号

1001031

2 都道府県名

群馬

3 名称

中之条の河岸段丘

4 所在地

群馬県吾妻郡中之条町内四万川、吾妻川畔

5 目標物からの方位・距離

中之条町

6 2.5万分の1地形図

中之条

7 対象地面積

14km²

8 概説

中之条の河岸段丘は吾妻川の左岸に開けた中之条町市街地及び吾妻川の支流にあたる四万川の左岸地域に模式的に見られる。ここでの河岸段丘は大別して4段に区分されている。即ち上位より糞原面、成田面、中之条面、伊勢町面がそれであり、研究者によつては伊勢町面をさらに細かく分けている。

9 詳細説明

最上位の糞原面は標高560m～600m程のところにあり、巾約1km傾斜方向の長さ約2kmの規模である。100分の1程の緩傾斜地となつてゐる。

糞原面の伸長方向はN20°Wで、四万川河床からの比高は150m～200mである。

その下位に続く成田面は標高450m～500m程のところにあり、その規模は前者と同程度である。成田面の伸長方向はN60°Wである。面の北側に入った沢により開析が進んでゐる。四万川の河床からの比高は100m～150mである。

中之条面は中之条市街地の西半分（西中之条町）とその西方の折田地域に続く平坦面であり、標高370m～400m、河床からの比高は50m～60mであり、その面の伸長方向はN80°Wである。

伊勢町面は市街地東半部（伊勢町）地域に見られる平坦面であり、巾100m～150m、長さ1km内外の小規模な面が4段程数えられる。各面の現河床からの比高は30m、20m、15m、7m、程である。面の

伸長方向はほぼ東西方向となつてゐる。

糞原面は古中之条湖野堆積面であり、群馬県で最古の段丘面と考えられている。面上には、下部ロームを含む約16mの関東ローム層を堆積している。その下底から上位へ約2.5mには糞原軽石層（25万年前）が挟まれており、糞原面の形成時代を知る鍵となつてゐる。成田面は古中之条湖消滅後、湖成層が下刻されていく過程で形成された。Pm-1（9.5万年前）以上の関東ローム層に被われている。中之条面には中之条泥流（=前橋泥流、約2.4万年前）堆積物以上の関東ローム層が堆積している。伊勢町面群には関東ロームの堆積は見られない。

中之条の河岸段丘群は、県内で最古の段丘を含み、地形面と関東ローム層の保存も良好で、北関東の典型的となる段丘である。

10 現況

糞原面および成田面は現在農耕地として利用されている。中之条面の西半分も以前は耕地であったが、最近では宅地化が進んでゐる。最下位の伊勢町面の南部の耕地が近年耕地整理がなされた。この地からは弥生期以後の遺跡遺物が多数出土した。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

その他

14 キーワード

河成段丘

15 ランク

II

16 その他

特になし

17 参考文献

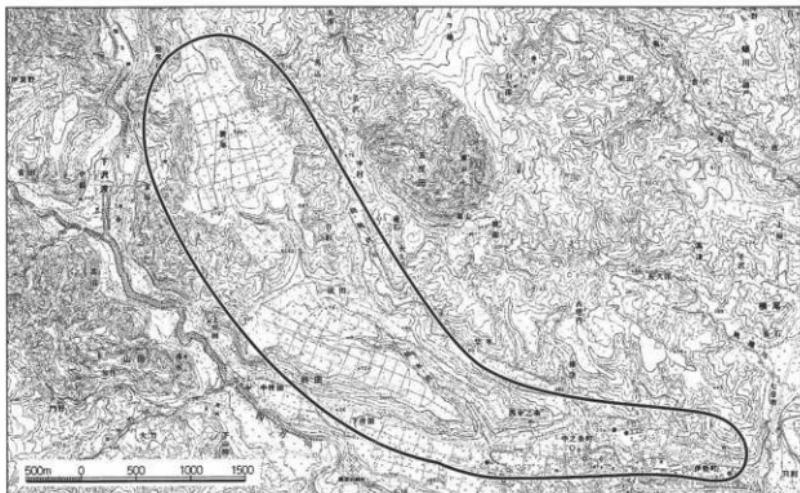
新井房夫, 1962, 関東盆地北西部地域の第四紀編
年, 群馬大学紀要, 10, 1-79.

山口一俊, 1975, 中之条盆地とその周辺の地形,
駒沢大学地理学研究, 5, 28-39.

18 記入者名

戸谷啓一郎

19 添付図表等



南側から見た中之条の河岸段丘
(左側の白い面は蓑原面、右側は成田原面)

1 コード番号

1001032

2 都道府県名

群馬

3 名称

箱島の湧泉

4 所在地

群馬県吾妻郡東村

5 目標物からの方位・距離

東村箱島郵便局の南約750m

6 2.5万分の1地形図

金井

7 対象地面積

100m²

8 概説

昔から不動尊の湧水として親しまれてきた湧水で、全国名水百選にも選ばれている。

9 詳細説明

湧水箇所は榛名山の北麓末端近くで、主成層火山の一部にあたる。水は幅約2mの簡単な石組みの隙間から湧出している。湧出点には岩盤は露出していないが、その下流約10mほどの所に滝があり、ここに安山岩質の凝灰角礫岩の露頭がある。10~30cmの安山岩角礫が粗粒火山灰で固結されている。湧水点に隣接した不動尊の境内やその周辺には、泥流堆積物～崖錐が堆積している。水は両者の境界から湧出しているようみえるが、詳細は不明である。日湧出量3万トン、晴天が続いていると湧水量に変化がないと言われていることから、地下にかなり広大な滞水層が存在していると推定される。

10 現況

湧出した水は鳴沢川となって吾妻川に注いでいる。付近に駐車場が整備されている。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

箱島の湧水、鳴沢川

14 キーワード

河川敷

15 ランク

I

16 その他

特になし

17 参考文献

大島 治, 1986, 榛名山, 日本の地質3 関東地方, 共立出版, 222-224.

18 記入者名

久保誠二

19添付図表等



湧水池付近

1 コード番号

1001033

2 都道府県名

群馬

3 名称

榛名山北東麓の火碎流による扇状地状地形

4 所在地

群馬県渋川市、北群馬郡吉岡町、吾妻郡東村

5 目標物からの方位・距離

上越線渋川駅北西約4.5km～南南西約3kmの範囲

6 2.5万分の1地形図

渋川、伊香保、金井

7 対象面積

9.5km²

8 概説

榛名火山は主成層火山をはじめ複数の成層火山や溶岩円頂丘となる複成火山である。山体の北東から東にかけては、沼尾川・登沢川・平沢川・唐沢川・滝沢川などが放射谷をつくり、吾妻川や利根川に注いでいる。これらの小河川が、火山山麓から吾妻川・利根川沿いの平坦地に出る部分には、扇状地状の地形が観察される。これらの多くは火碎流の堆積により形成されており、扇状地とは成因を異にしている。

9 詳細説明

榛名火山の最新の活動は、6世紀の二ツ岳誕生と、これに係わる噴火である。最初の活動は6世紀はじめに起こり、二ツ岳火山灰（FA）および二ツ岳第一軽石流（PPF-1）を主とするテフラを噴出した。このとき噴出したテフラを総称して、榛名二ツ岳渋川テフラと呼んでいる。ついで同世紀中ごろ、二ツ岳降下軽石（FP）、二ツ岳第二軽石流（PPF-2）などを噴出する活動があった。これらを榛名二ツ岳伊香保テフラと総称している。二ツ岳の形成はこの直後と考えられている。これより前の約9000年前、水沢山形成に伴って発生した岩屑なだれ～泥流は唐沢川を流下した（御幸田岩屑なだれ、または唐沢泥流）。

二ツ岳が二回にわたって流出した軽石流は西側を除く放射谷を流れ、吾妻川、利根川沿いの平坦面に

出ると、谷口を中心に扇状地状に堆積した。一部に軽石流に関連した火山泥流も見られる。沼尾川では第一・第二軽石流が堆積し、大輪沢川では第一軽石流のほか第二軽石流が断片的に見られる。登沢川・平沢川では第一軽石流のみが、滝沢川では第二軽石流のみが堆積している。

唐沢下流では、御幸田岩屑なだれ（唐沢泥流）が扇状地状地形を形成し、その上を薄く榛名二ツ岳伊香保テフラが覆っている。

一つの川に形成された扇状地状の地形は、扇頂から扇端までの最短距離が1km前後、扇端の長さが1.5km程度である。祖母島から有馬まで、こうした地形がいくつか発達し、互いに接している。

10 現況

大部分が農地や住宅地となっている。地形面は多少改変されてはいるが、おおむね保存されている。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

私有地・公有地

14 キーワード

二ツ岳、二ツ岳第一軽石流、二ツ岳第二軽石流、御幸田岩屑なだれ、扇状地

15 ランク

II

16 その他

特になし

17 参考文献

新井房夫編, 1993, 火山灰考古学, 古今書院, 264p.

大島 治, 1986, 榛名山, 日本の地質3 関東地方, 共立出版, 222-224.

竹本弘幸・久保誠二, 1995, 群馬の火山灰, みやま文庫, 180p.

萩原 哲, 1990, 榛名山北東麓の火碎流による扇状地状地形, 群馬県の貴重な自然 地形・地質編, 群馬県, 40-41.

18 記入者名

久保誠二

19 添付図表等



様名山東麓の層状地状地形



様名山東麓の地形区分（荻原、1990）



1 コード番号

1001034

2 都道府県名

群馬

3 名称

榛名山東麓の流れ山群

4 所在地

群馬県北群馬郡吉岡町、北群馬郡榛東村、群馬郡群馬町、前橋市

5 目標物からの方位・距離

主要地域は上越線八木原駅南南西 5 km

6 2.5万分の1地形図

渋川、伊香保

7 対象面積

15km²

8 概説

榛名火山の活動は、第1期～第5期の5期に分けられる。このうち第5期の溶岩円頂丘期に誕生した側火山の一つが相馬山である。相馬山は形成後、大規模な山体崩壊が発生し、南半分が失われた。崩壊に伴って発生した岩屑なだれが陣馬岩屑なだれである。南に流れた岩屑なだれは相馬ヶ原を形成し、東に流出したものは、榛東村、吉岡村、群馬町、前橋市の一部を埋めて、先端は利根川に達している。陣馬岩屑なだれは、多くの巨大古墳にも似た流れ山を形成している。

9 詳細説明

流れ山は、特に榛東村広馬場・新井、吉岡町南下・陣馬・大久保付近に集中している。このほか吉岡町源訪付近から前橋市植野町にかけてや、相馬ヶ原の一部にも分布している。その数は榛名火山東麓だけでも、およそ50が数えられる。流れ山の平面形はほぼ橢円で、一般に長径100～300m、短径50～100m、高さ数m～30mである。長径は東～西～西北西～東南東方向のものが多い。群馬町金古付近の流れ山は長径1,000m、短径250mに達するが、これはいくつかの流れ山が複合したものである。吉岡町吉岡中学校付近のものは、長径が南北を向いているように見えるが、これも複数の流れ山が接しているためである。流れ山の長径方向の垂直断面では、一般に相馬

山側が緩傾斜であるに対し、反対側が急傾斜である。相馬山側が山麓斜面に収束してしまうこともある。流れ山上には関東ローム層が堆積しており、その最下部近くに板鼻黃色輕石層が挟まれている。このことから、陣馬岩屑なだれが流出し、流れ山を形成したのは、約1.4万年前と推定される。

流れ山は淡灰色の5～15cmのデイサイト角礫と、同質の火山灰よりなるが、角礫の含有量が多い。鏡下では斑晶として、石英・斜長石・角閃石・しそ輝石・普通輝石が認められる。岩質は相馬山溶岩円頂丘を構成する溶岩に類似する。

10 現況

流れ山の多くは耕地や宅地化しているが、林のまま残されている部分もある。また、開発のためかなりの数の流れ山が失われている。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

私有地、公有地

14 キーワード

流れ山、陣馬岩屑なだれ、相馬山

15 ランク

II

16 その他

特になし

17 参考文献

大島治, 1986, 榛名火山. 日本の地質「関東地方」

編集委員会編, 日本の地質3 関東地方, 共立出版, 222-224.

久保誠二, 1990, 榛名火山東麓の流れ山群. 群馬県の貴重な自然 地形・地質編, 群馬県, 38-39.

18 記入者名

久保誠二

19 添付図表等



流れ山

1 コード番号

1001035

2 都道府県名

群馬

3 名称

吹割渓ならびに吹割滝

4 所在地

群馬県利根郡利根村追貝

5 目標物からの方位・距離

滝一利根村役場北北西0.6km

6 2.5万分の1地形図

追貝

7 対象地面積

40,000m²

8 概説

利根川の支流片品川に懸かり、昭和11年12月16日、国の天然記念物および名勝に指定されている。滝から下流、栗原川合流点にかけては吹割渓の深い峡谷が続くが、上流側は川幅が増し、河床は平坦で広い岩盤が露出している。滝は流れに対して斜交するよう懸かり、落差はおよそ7m、幅30mである。

9 詳細説明

吹割滝付近は新第三系追貝層群に属する吹割層・小沢層、および第四紀の園原湖成層よりなる。吹割層は複数の流紋岩質溶結凝灰岩よりなり、滝は上位の溶結凝灰岩に懸かっている。

吹割渓は吹割層および小沢層を下刻して形成されている。小沢層は淡緑色の水成凝灰岩、およびこれに重なる溶結凝灰岩よりなる。渓谷のほぼ中程にかかる千歳橋の下を、ほぼ南北に走る断層を境に、上流側は吹割層とそれに重なる小沢層、下流側は小沢層が分布する。片品川の栗原川との合流点付近から下流には、園原湖成層が分布する。この付近は、追貝層群と園原湖成層の境界にあたり、ここで硬い追貝層群が造溝層となり、初期の吹割滝が形成されたものと考えられる。段丘などから、滝が形成されたのはおよそ1万年前と推定され、滝発生から現在までの後退量は約750m、年間平均約7.5cmである。また下刻量は20mで、年間平均は約0.2cmとなる。

鰐飛びの滝から吹割滝、浮島にかけての河床には、

吹割層の溶結凝灰岩が連続して露出しているが、両岸の崖の上部には小沢層が見られる。この付近の岩壁は、所どころ紫紅色を呈しているが、これは節理に沿った热水変質の結果であり、変色部分の珪化作用は著しくない。

鰐飛びの滝の下流部では、珪化作用が激しく、岩石はきわめて堅硬である。こうした岩質の相違が一方では河床の幅の狭い吹割渓を、また一方では吹割滝上流の広い河床、千疊敷きを形成した。

吹割滝は片品川を斜交するような形で水が落ち、特殊な景観を形成している。これは、滝付近に北東ー南西の節理が発達して弱線となり、これに沿って下刻が進んだためである。

吹割滝下流部には、大小のおう穴が発達している。

10 現況

滝付近は整備が進んでいるが、観光客が川に近づき転落する危険性は残されている。鰐飛びの滝、吹割渓、おう穴についても、観光資源として利用できるのではなかろうか。

11 文化財指定状況

国指定名勝および天然記念物 371216

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

私有地、公有地

14 キーワード

吹割滝、吹割渓、吹割層、小沢層

15 ランク

IV

16 その他

吹割滝付近の岩質が比較的柔らかく、吸水率の高い部分には、岩盤の表面がB5サイズ程度の大きさで薄く板状に剥ける剝離現象が観察される。剝離は河床から2~5mの範囲に限られており、増水による吸水と、減水による乾燥の繰り返しが原因と考えられる。これに冬季の氷結も影響するかもしれない。剝離現象は滝を急速に浸食し、破壊するので、水量を年間をとおして一定にするなど対策が必要であろう。

17 参考文献

群馬県利根村・教育委員会、吹割滝調査会、1993,

天然記念物および名勝吹割渓ならびに吹割滝

「地形・地質調査報告書」、55p.

鷹野智由・小池千秋・久保誠二、1996、群馬県北

東部に分布する追貝層群とその放射年代、地
質学会103年学術大会講演要旨、100。

18 記入者名

久保誠二

19 添付図表等



吹割の滝

1 コード番号

1001036

2 都道府県名

群馬

3 名称

吹割の滝の甌穴群

4 所在地

群馬県利根郡利根村追貝

5 目標物からの方位・距離

吹割の滝およびその上流域

6 2.5万分の1地形図

追貝

7 対象面積

8,000m²

8 概説

甌穴またはボットホールといわれ、河床やかつての河床面に形成されるかめ状の形態をとる穴を示す。河床面に割れ目や節理があると、差別浸食によって、窪みが形成される。この部分に小石が入り、流れにより小石が回転し窪みをさらに大きくすることによって造られる。

9 詳細説明

片品川の河床の吹割の滝溶結凝灰岩面に、形成されている。甌穴は、100個以上確認でき、大きさも数mまである。吹割の滝自体も、甌穴の拡大によって形成されたものという説もある。吹割の滝溶結凝灰岩は、追貝層群を構成する一部層で、後期中新世の活動とされる。(追貝団研グループ、1969; 久保ほか、1993など)

10 現況

観光地で遊歩道が整備されている。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

建設省

14 キーワード

甌穴、吹割の滝、差別浸食

15 ランク

II

16 その他

特になし

17 参考文献

角田 景(1979) おう穴の研究—川の漫食作用を
さぐる—群馬県教育センター紀要, 107-112.

18 記入者名

中庄村八

19添付図表等



吹割の滝付近の甌穴群

1 コード番号

1001037

2 都道府県名

群馬

3 名称

ふじどう
不二洞の鍾乳洞

4 所在地

群馬県多野郡上野村大字川和大福寿617番地

5 目標物からの方位・距離

上野村役場の南方約1,500m

6 2.5万分の1地形図

両神山

7 対象地面積

100,000m²

8 概説

奥多野地域の石灰岩体内には、鍾乳洞が点在し、その最大のものが不二洞である。秩父南帯に属する石灰岩中に形成され、洞内には鍾乳洞や石筍、石柱、フローストーン等が見られ、美しい景観を保っている。

9 詳細説明

不二洞は本県一大きい鍾乳洞で、東西約500m、南北約200mの範囲にわたり、全長約140m、洞内総延長は約2,200mに達する。洞入り口付近にコウモリのゲアノ、内部全般にわたり、多くの鍾乳石・石筍・石柱・フローストーン・リムストーン等が形成されている。

洞の西側の水穴と呼ばれる縦穴には水がたたえられており、その近くの大広間の天井には大きな割れ目が見られる。また、かつての入口付近に支洞が発見され、新たな鍾乳石や歯類（特にヒグマ）・鳥類の骨の発見もあった。1996年には未公開の最深部が確認され、高さ約4m、広さが30畳ほどの空間に、多くの鍾乳石や石筍があることがわかった。

10 現況

付近一帯は川和自然公園及びレクリエーションスポットとして整備されている。鍾乳洞内は照明や案内板などの整備状況は良好である。

ただ、照明としてたいまつや大型ろうそくを用いた頃のすすのため、天井や壁面が汚れたり、整備以

前に人為的に破壊され先端の欠損した鍾乳石が数多く見られる。また、入洞者増による洞内の環境変化が、新たな植物の侵入をもたらしている状況も見受けられる。

11 文化財指定状況

県指定天然記念物 650723

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

管理者 上野村

14 キーワード

鍾乳洞、石灰岩

15 ランク

II

16 その他

特になし

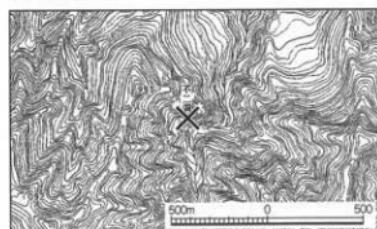
17 参考文献

高橋武夫, 1990, 不二洞・生穴・立出山の鍾乳洞、群馬県の貴重な自然、群馬県。

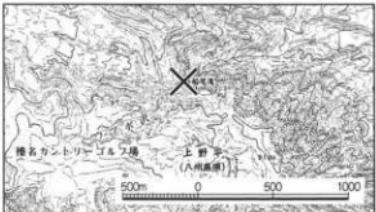
18 記入者名

黒田健次

19 添付図表等



不二洞

- 1 コード番号 なし
1001038
- 2 都道府県名 13 土地所有者・形態
群馬 不明
- 3 名称 14 キーワード
船尾滝 船尾滝、滝沢川、主成層火山、榛名火山
- 4 所在地 15 ランク
群馬県北群馬郡吉岡町 I
- 5 目標物からの方位・距離 16 その他
水沢観音から南南西約2km 特になし
- 6 2.5万分の1地形図 17 参考文献
伊香保 大島治, 1986. 日本の地質3 関東地方, 日本の
7 対象地面積 地質「関東地方」編集委員会編, 共立出版,
3,000m² 222-224.
- 8 概説 滝口武彦, 1973. 榛名火山見学資料, 火山学会.
- 船尾滝は、榛名山の東斜面を流れる滝沢川の上流にかかる、落差60m、幅2~10mの滝である。風光明媚で、周辺は小公園として整備されている。
- 9 詳細説明 18 記入者名
榛名火山の活動は、第1期~第5期に分けられるが、滝は第1期に形成された主成層火山にかかっている。滝に向かってその右側には断層があり、滝沢川沿いに走っていると推定される。滝のかかる断崖では、断層の北側に溶岩が分布しているが、これは滝まではのびていない。造景層は凝灰角礫岩である。滝の落ち口の凝灰角礫岩は、表面は茶褐色、新鮮面では暗灰色で、10cm以下の暗灰色安山岩角礫を少量含んでいる。基質は固結しており、多少溶結している可能性がある。滝の成因についての詳細は不明であるが、滝の下流約1kmに、北北西~南南東の断層が想定され、これに関わって滝が形成され、現在の位置に後退した可能性がある。
- 10 現況 19添付図表等
- 滝周辺は公園として整備がすすみ、滝の下流の滝沢川も整備が行われている。滝のかかる断崖は、割れ目の多い溶岩や、凝灰角礫岩よりもなっているため、豪雨時の崩壊に注意する必要があろう。
- 11 文化財指定状況
- 吉岡町名勝 880323
- 12 他の法令等による指定状況
- 
- 

船尾滝

1 コード番号

1001039

2 都道府県名

群馬

3 名称

丸沼・菅沼

4 所在地

群馬県利根郡片品村

5 目標物からの方位・距離

金精峠西2.0km、沼田インターより36km

6 2.5万分の1地形図

丸沼

7 対象地面積

1.7km²

8 概説

日光白根火山の最新期の噴火による堰止め湖である。日光白根火山の溶岩流は比較的若く、溶岩堤防や溶岩じわなどの表面微地形を明瞭に残している。

その中の丸沼溶岩流はその名前のとおり現在の丸沼の所まで溶岩が流出し、谷地形を埋める形で丸沼の地形を作った。さらにその上に新期の菅沼溶岩が流出して2つの谷を埋める形となった。この3つの谷にできた湖は連珠湖と言われているが、丸沼は1段低いところにある。

9 詳細説明

菅沼（すげぬま）は標高1731mにあり、周囲14km、最大深度67m、面積0.85km²。3つにくぎれいでいて、日光側から、清水沼、弁天沼、そして菅沼の名称があるが、総称して菅沼という。ニジマス、ヒメマスが生息している。

丸沼は、大尻沼と連珠湖を形成していたが、今では堤防（人工的なダム）で分けられている。周囲6km、標高1430m、最大深度47m、面積0.61km²。菅沼は丸沼より300m高く、この高低差を利用した水力発電がおこなわれている。また大尻沼からも落差約300mの発電がされていて、大滝川（片品川の支流）に流れこんでいる。溶岩によるせき止め湖の典型として貴重である。

10 現況

菅沼は現在のところほとんど人の手が入っておらず、自然のまま保たれていて透明度が高い。わずか

に清水沼の湖畔に菅沼キャンプ村があるが、規模は小さく管理も行き届いている。

丸沼のほうは比較的開けていて、丸沼温泉の温泉客や釣り客などで賑わっている。旅館、土産物屋、釣り客などのためか若干透明度は落ちるが、自然保護のため湖岸の整備は整っている。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

日光国立公園内である

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

堰止め湖、連珠湖、溶岩堤防、シラネアオイ

15 ランク

Ⅲ

16 その他

特なし

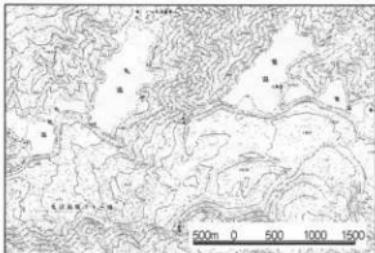
17 参考文献

高橋正樹・小林哲夫編、フィールドガイド日本の
火山①「関東甲信越の火山I」、筑地書館。

18 記入者名

竹中章夫

19 添付図表等



菅沼

1 コード番号

1001040

2 都道府県名

群馬

3 名称

本白根山の構造土

4 所在地

群馬県吾妻郡草津町

5 目標物からの方位・距離

白根火山ロープウェー山頂駅から南へ約1km

6 2.5万分の1地形図

上野草津

7 対象面積

50,000m²

8 概説

本白根山では、火口湖の一つである鏡池に大型の多角形構造土が見られ、また山頂の平坦地には、多角形構造土・線状構造土・アースハンモックが、からみとその周辺の火口底には、多角形構造土・線状構造土といった周水河地形がみられる。

鏡池の多角形構造土は、その直径が2m内外と大型の構造土であり、直径30cm内外を中心とする角礫が多角形を形づくり、中央部は砂シルトを主体とし、いくつかの多角形では中心に角礫が2、3個配されている。湖底の3分の2程度をこの構造土が覆い、水量の多い時期には全て水面下に没するが、水深が1、2m程度であり、ほぼ透明であるため、水没しても構造土がはっきりと識別できる。

山頂平坦地および火口底の多角形構造土は、径数cm前後の角礫が形づくりの直径30cm内外の大きさのものである。多角形の内部は、砂および細礫で埋められている。線状構造土は斜度数度の緩斜面に形成され、多角形構造土とはほぼ同程度の大きさの角礫からなっている。多角形・線状いずれの構造土も、礫部分は地表から20~30cmの深さまでくさび状に埋まっている。

これらの構造土のうち、特に鏡池の多角形構造土は、大きさにおいても広がりにおいても、他に例を見ない程見事なものである。天然記念物に指定し、多くの人にその存在を知つてもらうと共に、一層の保全に力を入れる必要がある。

9 詳細説明

8に同じ

10 現況

いずれも遊歩道脇にあるが、木道・ロープ等で立ち入りを禁止するなど保全のための処置はなされている。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

上信越高原国立公園

13 土地所有者・形態

14 キーワード

構造土、周水河地形、鏡池、本白根山

15 ランク

IV

16 その他

特になし

17 参考文献

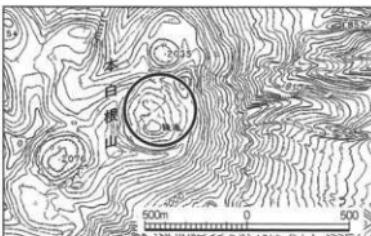
早川由紀夫, 1983, 草津白根火山の地質, 地質学雑誌, 89, 9, 511-525.

木崎喜雄, 1984, 草津温泉誌「自然・科学編」, 6-34.

18 記入者名

角田寛子、飯島恭江、中村芳子

19 添付図表等



構造土

1 コード番号

1001041

2 都道府県名

群馬

3 名称

沼田の河岸段丘

4 所在地

群馬県沼田市、利根郡白沢村

5 目標物からの方位・距離

上越線沼田駅東北東約0.5~11kmの範囲

6 2.5万分の1地形図

沼田・高平・後閑

7 対象地面積約13km²**8 概説**

沼田市付近には、利根川・片品川・薄根川に囲まれた巨大な台地が形成されており、地元では沼田台地と呼んでいる。沼田台地は沼田面、伊闇面、平出面よりなる河岸段丘である。このうち沼田面は日本有数の規模をもっている。沼田の市街地は沼田面の西部に発達している。

9 詳細説明

古沼田湖消滅後（十数万年前と推定されている）、主に赤城川方面から供給された砂礫によって扇状地が形成された。その堆積物は沼田疊層と呼ばれている。扇状地は片品川・利根川・薄根川によって、三方を削られ、台地が形成された。この開析扇状地面が沼田面である。沼田疊層の厚さは、段丘の西端で約15m、東端の白沢村岩室付近では100mに近い。沼田面の西端では利根川からの比高が約100m、東端では片品川からの比高が160mに達する。沼田疊層の下位には、沼田湖成層や武尊火山噴出物、新第三紀のデイサイト質凝灰角礫岩が分布しており、段丘崖の諸處に露出している。沼田面は東北東一西南西に約10km、幅は最大約1.3kmあり、段丘面の面積や比高からみて、日本有数の大規模な河岸段丘である。

10 現況

段丘面の大部分は市街地、および農地になっている。地形に多少の変化はあるが、段丘の原形は保存

されている。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

私有地、公有地

14 キーワード

沼田面・沼田台地・沼田疊層

15 ランク

IV

16 その他

特になし

17 参考文献

久保誠二, 1968, 群馬県沼田盆地に分布する疊層

および湖成層とその堆積構造, 地質雑誌, 74, 499-509.

久保誠二・川端経男, 1995, 沼田市史 自然編
I 地形・地質, 沼田市史, 1-158.

竹本弘幸・久保誠二, 1995, 群馬の火山灰, みやま文庫, 180p.

18 記入者名

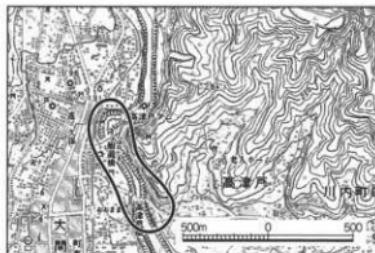
久保誠二

19添付図表等

沼田の河岸段丘



- 1 コード番号 不明
1001042
- 2 都道府県名 13 土地所有者・形態 不明
- 群馬
- 3 名称 14 キーワード
付加体、岩脈、ポットホール、峡谷、渡良瀬川
- 高津戸峡谷**
- 4 所在地 15 ランク I
- 群馬県山田郡大間々町高津戸
- 5 目標物からの方位・距離 16 その他 特になし
- わたらせ渓谷鉄道大間々駅から東へ0.3km
- 6 2.5万分の1地形図 17 参考文献
大間々町誌編さん室, 1996, 大間々町誌基礎資料
図, 大間々町の地形・地質, 148p, 大間々
町誌刊行委員会.
- 7 対象地面積 18 記入者名
藤井光男
- 不明
- 8 概説 19添付図表等
- 高津戸峡谷は、足尾山地西部の関東平野に接する部分に位置する。高津戸峡谷は、渡良瀬川の侵食でできた。この峡谷の景観はみごとで“高津戸峡”と親しまれ、特に最近は見学道路等も整備されて観光地としての賑わいをみせている。
- 9 詳細説明
高津戸峡谷の地質は、泥質岩を主体としたジュラ紀付加体の一部である。部分的に、三疊紀～古生代後期の石灰岩層、チャート層、凝灰岩層、溶岩層を異地性岩体として取り込んでいる。峡谷の上流部の石灰岩層からは、石炭紀のサンゴ化石が見つかっている。峡谷の中央部には、流紋岩の岩脈がある。淡褐色の厚さ数mの岩脈で、両岸に露出していて、周囲の地層とは区別しやすい。また、峡谷の中央部では、ポットホールも見られる。
- この峡谷の地質は、足尾山地ではごく一般的な地質（足尾帯）と言えるが、この地は観光地となっており、県内外から沢山の人々が見学に訪れている。その意味では、天然記念物として保護し観察・學習に供する意義はあるものと思われる。
- 10 現況
- 11 文化財指定状況 未指定地
- 12 他の法令等による指定状況



高津戸峡

1 コード番号

1001043

2 都道府県名

群馬

3 名称

中之条の流れ山地形

4 所在地

群馬県吾妻郡中之条町大字折田147番地、および
中之条町大字中之条町693番の1

5 目標物からの方位・距離

- ・中之条町役場の西南西約1.8km (マルッコ山)
- ・中之条町役場の北東約100m (名称なし)

6 2.5万分の1地形図 中之条

7 対象面積

2,500m² (マルッコ山) 1,500m² (名称なし)

8 概説

中之条の市街地周辺には10数個の小規模な流れ山がみられる。町ではこれらのうち2個を1994年に流れ山地形として、天然記念物に指定した。折田の通称マルッコ山と、大字中之条町の無名の小丘である。

9 詳細説明

中之条盆地周辺には数段の河岸段丘が発達するが、流れ山ののっているのは、このうち比較的下位の中之条面である。中之条面は広く岩屑なだれ堆積物におおわれていて、各流れ山を構成する岩石も同様の堆積物である。約2万4000年前頃に発生した、浅間火山の大崩壊によって生じた応桑岩屑なだれに由来するとされている。

これらの流れ山はいづれも底径30~40m、比高7~8m、高くとも10m未溝で、ごく小さい。しかしマルッコ山は水田地帯の中ほどにあって、ランドマーク的な存在感がある。大字中之条町のものは東側の削り取り面に、内部を構成する火山岩屑が露出している。

中之条の流れ山群は給源から遠く離れた場所に形成された点、また平坦な段丘面上に塚のように突出している点などが特異である。

10 現況

マルッコ山は北西部が大きく削りとられている。

大字中之条町のものは周囲が少しづつ削られていく。

11 文化財指定状況

中之条町指定 天然記念物 流れ山地形

(マルッコ山) 941201、同流れ山地形 941201

12 他の法令等による指定状況 なし

13 土地所有者・形態 ともに私有地

14 キーワード

流れ山、岩屑なだれ、中之条段丘面

15 ランク I

16 その他

天然記念物に指定されたもの以外の流れ山についても、調査の必要がある。

17 参考文献

山口一俊, 1975, 中之条盆地とその周辺の地形,

駒沢大学大学院地理学研究, 5, 28-39.

18 記入者名 吉羽興一、戸谷啓一郎

19添付図表等



マルッコ山



町役場北のながれ山

1 コード番号

1001044

2 都道府県名

群馬

3 名称

妙義山

4 所在地

群馬県甘楽郡妙義町、下仁田町、碓氷郡松井田町

5 目標物からの方位・距離

碓氷峠の南東7kmから12kmの間

6 2.5万分の1地形図

南軽井沢 松井田

7 対象面積

30km²

8 概説

妙義・荒船・佐久高原国定公園に属する主要な景勝地であり、石門群など、溶岩や火碎岩が選択侵食された結果作り出された急峻な地形が特徴的である。

9 詳細説明

広義の妙義山塊は北西側の裏妙義地域と、南東側の表妙義地域に二分されるが、ふつう妙義山というときは表妙義をさす。

妙義山の山容は起伏の激しいやせ尾根によって特徴づけられ、尖塔や石門が各所にみられる。

妙義山には約500万年前に噴出した、陸成の火山岩類が分布する。おもに厚い火碎岩と数m程度の溶岩の互層から構成されている。それらは断層や貫入岩によって区切られ、1辺が500m～2km程度の多角形ブロックにわかれている。

岩質はおもに大きな輝石斑晶を特徴とする柱状輝石安山岩であるが、デイサイトや、まれに花崗閃緑岩の岩体も認められる。

尖塔や石門およびやせ尾根など、妙義の景観を作り出している要因として、火碎岩の硬さが不均質であること、溶岩が薄く連続性に乏しいこと、岩脈と火碎岩とで侵食抵抗力の差が大きいこと、卓越した方向の割れ目が多いこと、などが考えられる。

10 現況

豪雨などにより登山道の崩壊がしばしば起きる。

落石や滑落による事故も年間数件起きている。

11 文化財指定状況

国指定 名勝 230307

12 他の法令等による指定状況

妙義・荒船・佐久高原国定公園

13 土地所有者・形態

国有地・県有地

14 キーワード

妙義・国定公園、地形

15 ランク

IV

16 その他

特になし

17 参考文献

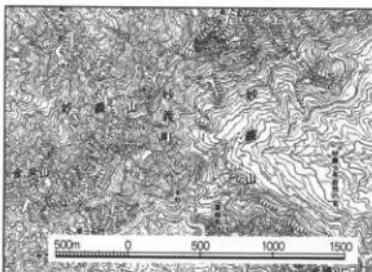
伊藤公夫・妙義団体研究グループ（1989）群馬県西部妙義地域の地質その2－火山体内部におけるブロック化－、日本地質学会96年学術大会講演要旨、p.519。

妙義団体研究グループ（1989）陥没？ゴールドローン？－群馬県西部妙義地域に見られる複雑なブロック化現象。地学団体研究会第43回シンポジウム要旨集、261-262。

18 記入者名

中村 正芳

19 添付図表等

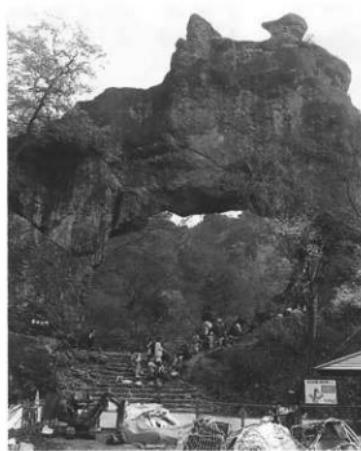




中之岳山麓の岩塔群



大砲岩周辺



第4石門

- 1 コード番号
1001045
- 2 都道府県名
群馬
- 3 名称
茂林寺沼及び低地湿原
- 4 所在地
群馬県館林市堀工町1169
- 5 目標物からの方位・距離
東武伊勢崎線茂林寺前駅より東へ約500m
- 6 2.5万分の1地形図
館林
- 7 対象面積
250,000m²
- 8 概説
茂林寺沼及びその周辺の低層湿原は、茂林寺川が邑楽台地を開削し、谷底に形成された平野の出口を谷田川の自然堤防が塞いだことによってつくられたものである。その年代は、¹⁴C年代測定や泥炭中の火山灰から、2370±420年以前であることがわかっている。
- 茂林寺沼をはじめとする東毛池沼群は、洪積世末の第四氷期の海面低下と後氷期の海面上昇とに深く関わって形成されている。中でも、茂林寺沼及び茂林寺湿原は、氷期から後氷期の海面変動を物語る貴重な歴史的・地形的な遺産の一つである。
- 本地域は、生物学的に見ても良好な自然環境が残されており、県内唯一のコウホネ群落やイトハコベ・サワギキョウなどの貴重な植物、常緑広葉樹帯にある県内最大の低層湿原などと知られている。
- 9 詳細説明
同上
- 10 現況
周辺の住宅地や工場などからの排水が直接流入しているため、沼の水質の悪化は著しく、沼や湿原の生物相に大きな影響を与えている。また、湿原の北部を中心とする周辺部の開発が進んでおり、沼や湿原の水収支に変化が起こることが予想される。家庭排水や工場排水の流入を防ぐとともに、沼及び湿原を潤すための清水を確保し、湿原の乾燥化を食い止めることが必要であろう。
- 11 文化財指定状況
県指定天然記念物 600223
- 12 他の法令等による指定状況
不明
- 13 土地所有者・形態
館林市
- 14 キーワード
邑楽台地、東毛池沼群、低層湿原
- 15 ランク
II
- 16 その他
特になし
- 17 参考文献
群馬県林務部、1990、茂林寺沼の低層湿原植生、
群馬県の貴重な自然－植物編一、338-339。
群馬県、1986、良好な自然環境を有する地域学術
調査報告（III）、1-21。
- 18 記入者名
橋本利雄
- 19 添付図表等
- 
- 

1 コード番号

1001046

2 都道府県名

群馬

3 名称

矢太神沼「湧水池」

4 所在地

群馬県新田郡新田町大根

5 目標物からの方位・距離

県立新田晚高等学校より東へ約600m

6 2.5万分の1地形図

上野境

7 対象地面積

1,200m²

8 概説

矢太神沼は大間々扇状地の扇端湧水帯にあり、团蔵坊や重殿とともに多くの湧水量をもち、その値は1日平均2,000~3,000m³程度である。湧水量は、1~3ヶ月前の降水量と深く関係しており、長雨のときには多く、干ばつのときには減少する傾向がある。近年、干ばつによる枯渇現象が数回確認されたこともあるが、湧水量は現在も豊富な状態にある。

矢太神沼は、満水時には南北80m、東西15mの細長い沼地で、石田川の水源となっている。湧水地点は沼の北端にあり、池底の砂が舞い上がる自噴現象が見られる。この沼の北側を取り囲むように、縄文時代の集落跡が確認されていることから、この湧水が古くから人々の生活に深く結びついていたことがわかる。

9 詳細説明

同上

10 現況

矢太神沼の周辺は、畠地が多く人家も少ない。開発も進んでいないので、現状では生活排水や工場排水などが流れ込む心配はない。沼の東と西には、コンクリートの護岸と金網の柵が設置されており、土砂の流れ込みや危険の防止に役立っている。

11 文化財指定状況

町指定天然記念 740901

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

新田町有地

14 キーワード

大間々扇状地、扇端湧水帯、自噴現象

15 ランク

I

16 その他

今後、大間々扇状地の開発が進むにつれ、地下水位が低下し、湧水量の減少や枯渇が心配される。

17 参考文献

新田町教育委員会, 1988, 矢太神湧水地, 矢太神沼遺跡, 新田町の文化財, 34-50.

18 記入者名

橋本利雄

19 添付図表等



矢太神沼湧水池

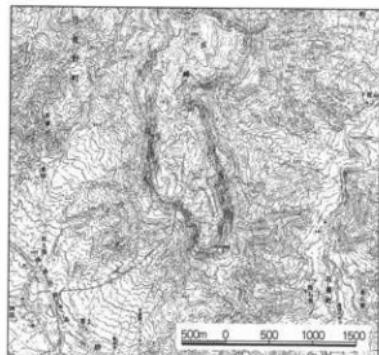
- 1 コード番号 11 文化財指定状況
1001047 未指定
- 2 都道府県名 12 他の法令等による指定状況
群馬 不明
- 3 名称 13 土地所有者・形態
国
- 三峰山**
- 4 所在地 14 キーワード
群馬県沼田市、利根郡月夜野町 溶結凝灰岩、柱状節理、ケスター
- 5 目標物からの方位・距離 15 ランク
JR上越線後閑駅北東約3km II
- 6 2.5万分の1地形図 16 その他
特になし
- 後閑 17 参考文献
高橋雅紀・齊藤和男・梅津浩之, 1991, 群馬県北部水上地域に分布する中新統の地質と年代, 地球科学, 45-64, 35-452.
- 7 対象地面積 18 記入者名
6 km² 川端経男、久保誠二
- 8 概説 19 添付図表等
- 三峰山の地質は、新第三紀中新世の後閑層のグリーンタフ、原層の泥岩、および、それらに不整合に重なる三峰山層、利根溶結凝灰岩層よりなっている。

9 詳細説明
三峰山の山頂部を形成している岩石はデイサイト質の溶結凝灰岩で、利根溶結凝灰岩と呼ばれている。厚さは約100mである。周囲は切り立った崖で柱状節理が見られる。上面はほとんど平らで、火碎流堆積物の特徴を残している。利根溶結凝灰岩の年代は、カリウム・アルゴン法によって、5.3~5.0Maという値が出されている。利根溶結凝灰岩の下位には白色のデイサイト質で非溶結の凝灰岩が分布している。この凝灰岩は三峰山層と呼ばれ、多くの軽石を含み、風化しやすく、軟らかい。年代は10.1~11.3Maである(K-Ar法)。

山頂部を形成している利根溶結凝灰岩は、周辺を切り立った崖でかこまれ、台地となっている。利根溶結凝灰岩が削り残されて形成されたケスターである。ケスターとしても台地としても特有の形態を保持している。

10 現況

山地のため、地形は自然な状態で保存されている。近年、山頂部南端にパラグライダーの飛行場が造成された。人工改変の規模が小さいので、山体への影響は少ないものと思われる。



三峰山

1 コード番号

1002048

2 都道府県名

群馬

3 名称

岩室層の不整合転石

4 所在地

群馬県利根郡白沢村岩室

5 目標物からの方位・距離

東電岩室発電所の下流500m、片品川河川敷（輪組大橋の上流200m）

6 2.5万分の1地形図

高平

7 対象地面積

25m²

8 概説

片品川の岩室発電所から上流の藪原ダム付近にかけての地域には、中生代ジュラ紀初期の内湾ないし湖沼に堆積した岩室層が分布する。

下部の砾岩層の下限は露頭で見る限りは蛇紋岩類と断層で接するが、一部は蛇紋岩を不整合に覆うと考えられている。片品川の河原に転がっている巨大な礫の中に、岩室層の礫岩が蛇紋岩の上に重なっているものがみられる。この付近に存在する不整合の部分が山腹から落ちて巨大な礫になったものである。したがって、この巨大礫は岩室層が蛇紋岩を不整合に覆って堆積したことと示す根拠で、地質的に貴重であり、不整合の部分が礫になっていることはきわめてめずらしい。

9 詳細説明

8 と同じ

10 現況

片品川の河床にある径3mほどの巨大礫である。地元の人以外はほとんど立ち入らない場所である。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

河川敷

14 キーワード

岩室層、不整合

15 ランク

II

16 その他

特になし

17 参考文献

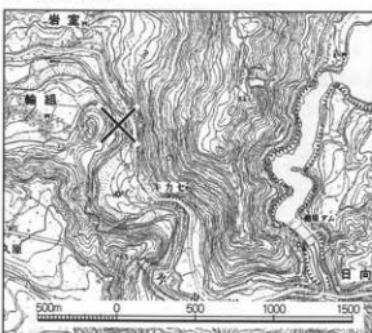
木村達明, 1952, 岩室層の地質学的研究(1), 地質学雑誌, 58, 457-468.

茅原一也, 1986, 岩室層, 「日本の地質3 関東地方」, 共立出版, 57-58.

18 記入者名

神沢憲治

19 添付図表等



不整合転石

- 1 コード番号 1002049
- 2 都道府県名 群馬
- 3 名称 北村凝灰岩および馬場凝灰岩
- 4 所在地 群馬県富岡市下高尾の星川および富岡市藤木の藤木川
- 5 目標物からの方位・距離 富岡市役所から北東へ4~4.5km
- 6 2.5万分の1地形図 富岡
- 7 対象面積 北村: 30m² 馬場: 100m²
- 8 概説 大石・高橋（1990）によれば、2凝灰岩は富岡層群中部原市層中に狭在する。北村凝灰岩は黒雲母を顯著に含む軽石質凝灰岩で、報告地では約20mの層厚をもつ。馬場凝灰岩は、北村凝灰岩の約160~210m上位に狭在する軽石質凝灰岩で、石英・長石・黒雲母が認められる。報告地では数mの層厚であったと記録されている。
- 9 詳細説明 *Globigerina nepenthes* は、Blow (1969) の浮遊性有孔虫化石帶 N.13/N.14境界を規定する世界的に重要な種である。この化石が、富岡地域において北村凝灰岩と馬場凝灰岩の中間層準から産出している。Odin et al. (1995) は、この2凝灰岩の年代を極微量⁴⁰Ar/³⁹Ar法で測定し、高精度で年代が確定した。この年代をもって、*Globigerina nepenthes* の初産出層準の年代を11.76Maとした。
- 10 現況 馬場凝灰岩の露出は認められない。碓氷川においてはかろうじて、河床に露出する。北村凝灰岩は非常に良く露出しているが、風化が進みつつある。
- 11 文化財指定状況 未指定
- 12 他の法令等による指定状況 未指定
- 13 土地所有者・形態
- 14 国 国
凝灰岩・富岡層群・原市層・⁴⁰Ar/³⁹Ar年代
- 15 ランク IV
- 16 その他 特になし
- 17 参考文献 大石雅之・高橋雅紀, 1990, 群馬県高崎地域に分布する中新統—特に庭谷不整合形成過程について—. 東北大学地質古生物学教室研報, 92, 1-17.
- Odin, G. S., Takahashi, M., and Costa, M., 1995, 40Ar/39Ar geochronology of biostratigraphically controlled Miocene tuffs from central Japan: Comparison with Italy and age of the Serravallian-Tortonian boundary. Chem. Geol. (Isot. Geosci. Sect.), 125, 105-121.
- 18 記入者名 野村正弘・野村美子
- 19 添付図表等
- 
- 

1 コード番号

1002050

2 都道府県名

群馬

3 名称

権現峠付近の関東ローム層

4 所在地

群馬県沼田市

5 目標物からの方位・距離

沼田駅西南西4 km

6 2.5万分の1地形図

上野中山

7 対象面積

約100ha

8 概説

群馬県下の洪積世以前に形成された古い平坦面には、関東ローム層が堆積している。しかし、洪積世前期から末期までの関東ローム層が、良好な状態で保存されている場所はきわめて少ない。権現峠付近の崖は、50万年前頃からの古い関東ローム層が堆積しており、貴重な露頭である。

9 詳細説明

厚さ20mに近い関東ローム層が見られる。浅間火山起源の草津黄色軽石層・白糸の滝軽石層・板鼻褐色軽石層・中之条火山礫層、榛名火山起源の八崎軽石層・草津白根起源の長野原軽石層など近辺の火山噴出物のほか、始良・丹沢火山灰・御岳第一軽石などの広域テフラも観察される。地表からの深さ7mと8mの間に浸食面があり、一部のテフラが欠損している。

10 現況

尾根を掘削してつくられた人工の崖であり、急速に樹木におおわれつつある。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

なし

13 土地所有者・形態

関東ローム層・権現峠

14 キーワード

私有地

15 ランク

Ⅲ

16 その他

関東北部の標準となる露頭であり、保存が望まれる。

17 参考文献

竹本弘幸・米澤 宏・由井将雄・小池一之, 1987,

中之条湖成層の層序とファイフション・トラック年代. 駒沢地理, 93-108.

竹本弘幸・久保誠二, 1995, 群馬の火山灰. みやま文庫, みやま文庫, p180.

矢口裕之, 1992, 群馬県中之条盆地周辺の風成火山灰層の層序. からつ風, 10-20.

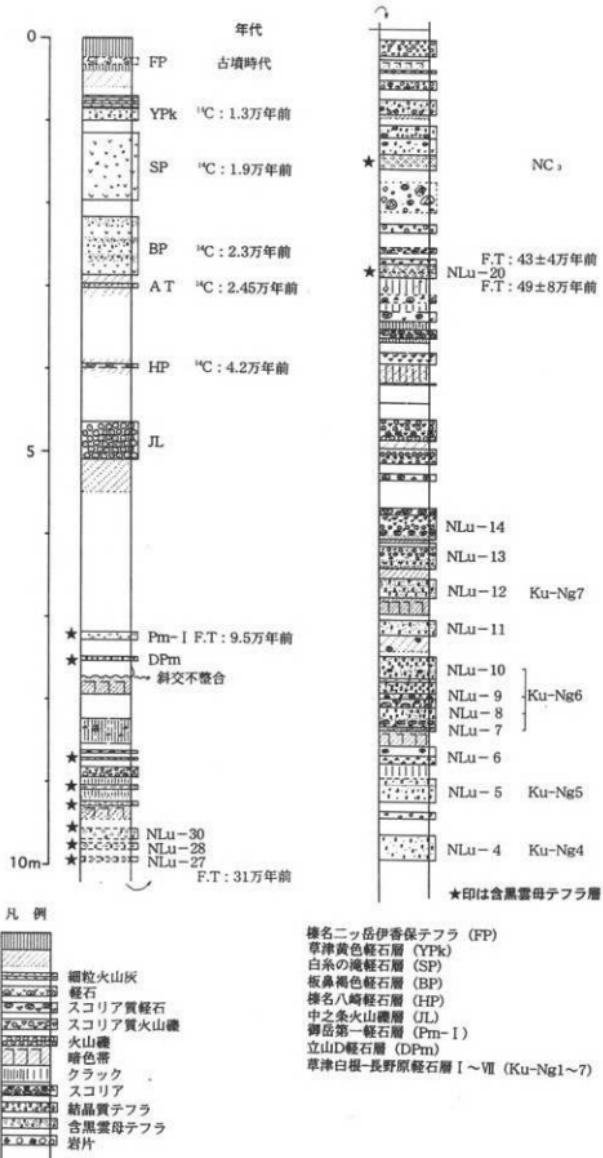
18 記入者名

久保誠二、竹本弘幸

19 添付図表等



権現峠の露頭



関東ローム層柱状図

1 コード番号 1002051

2 都道府県名 群馬

3 名称

清水用水の関東ローム露頭

4 所在地 群馬県勢多郡黒保根村

5 目標物からの方位・距離

渡良瀬渓谷鉄道水沼駅北西2.7km

6 2.5万分の1地形図 上野花輪

7 対象地面積 300m²

8 概説

清水用水には、高さ15m前後の谷壁に、表土から下部ローム層まで、連続して露出しており、特に湯の口軽石層より下位のローム層が良く観察できる。東群馬の標準露頭である。

9 詳細説明

ここでは赤城火山をはじめ複数の火山からもたらされた、多くの軽石層、火山灰層を観察できる。主な層を上位からみると、浅間板鼻褐色軽石層、赤城小沼降下火山礫層、赤城水沼降下火山礫層、赤城鹿沼軽石層（3.2万年前）、赤城湯の口軽石層（4.5万年前）がある。ここでは赤城鹿沼軽石層と赤城湯の口軽石層の間にあるはずの、樺名八崎軽石層が欠けている。

更に下位には一の鳥居軽石層群が観察される。一の鳥居軽石層群は26枚識別され、上位から下位へIcP-1～26の番号がつけられている。この中には赤城火山起源のものと他火山起源のものとが含まれる。IcP-1は行川軽石層に、IcP-2は乙連沢軽石層に、IcP-6は榆木軽石層に、IcP-16は御岳第一軽石（9.5万年前）に、IcP-19は立山D軽石に対比される。

赤城水沼降下火山礫層はほとんどが、チャート・頁岩などの角礫よりなる特殊な火山礫層である。

ここは東群馬の標準露頭の一つであるほか、赤城火山の活動史を解明する上で重要である。

10 現況

数十mの連続露頭である。周囲は雜木林で、用水路も整っている。

11 文化財指定状況 未指定

12 他の法令等による指定状況 不明

13 土地所有者・形態 不明

14 キーワード

関東ローム層、下部ローム層、湯の口軽石層、一の鳥居軽石層群、降下軽石層

15 ランク II

16 その他 特になし

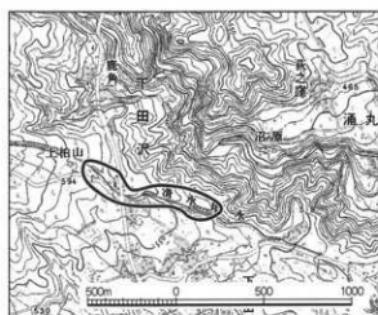
17 参考文献

竹本弘幸・久保誠二, 1995, 群馬の火山灰, みやま文庫, 180p.

鈴木毅彦, 1996, テフラが示す赤城火山の噴火史, 第四紀露頭集—日本のテフラ, 第四紀学会, 176-177.

18 記入者名 中島孝守、久保誠二

19 添付図表等



清水用水の関東ローム露頭

- 1 コード番号
1002052
- 2 都道府県名
群馬
- 3 名称
原市層の連續露頭
- 4 所在地
群馬県安中市水口から北村にかけての碓氷川
- 5 目標物からの方位・距離
JR安中駅南西3km付近から5km付近にかけて
- 6 2.5万分の1地形図
富岡・松井田
- 7 対象面積
0.5km²
- 8 概説

当該地域の碓氷川河床には原市層の連續露頭がある。ここからは各種の化石が多く産出するほか、年代決定に重要な凝灰岩層もあるなど、学術的に貴重な地域である。

9 詳細説明

安中市の水口から北村にかけての碓氷川河床には新第三紀中新世の原市層が良好に露出している。原市層は主として暗灰色塊状泥岩から成り、中部に北村凝灰岩・原市凝灰岩、上部には馬場凝灰岩・上越沢凝灰岩が挟在される。凝灰岩はいずれも鍛層である。このうち馬場凝灰岩は、絶対年代決定に重要な資料となっている。原市層は、有孔虫化石、石灰質ナノ化石など微化石が多産することでも有名で、日本の標準層序の一つとなっている。また、大型の脊椎動物化石も産出している。

この河床は、原市層の模式地で、特に原市層と板鼻層の境から原市凝灰岩までの地層が、ほぼ連続して観察できる。これほど連続して良好な状態で原市層を観察できる場所は、この地域ではここだけである。学術的に貴重な露頭であるので、ぜひ保存したい。

10 現況

護岸工事により一部に地層の観察しにくいところもあるが、河床にも地層は露出し地層の観察には充分である。

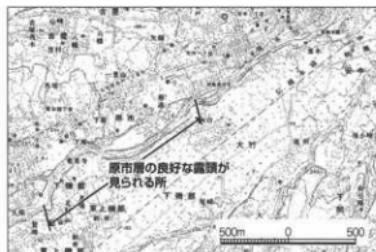
- 11 文化財指定状況
未指定
- 12 他の法令等による指定状況
不明
- 13 土地所有者・形態
河川敷き
- 14 キーワード
原市層・大型脊椎動物化石・有孔虫化石・中新世

- 15 ランク
Ⅲ
- 16 その他
この地域の100分の1の柱状図が作成されている。
- 17 参考文献
金子 稔・田中宏之・上村和男, 1989, 碓氷川に分布する原市累層上部の柱状図, 群馬県立歴史博物館調査報告書, 5, 5-16.
大石雅之・高橋雅紀, 1990, 群馬県高崎市に分布する中新統-特に庭谷不整合形成過程について, 東北大陸質古生物研報, 92, 1-17.

18 記入者名

金子 稔

19 添付図表等



原市層の連續露頭

1 コード番号

1003053

2 都道府県名

群馬

3 名称

安中市のウミガメ

4 所在地

標本：群馬県立自然史博物館ほか

産地：安中市郷原－松井田町新田間を流れる碓氷川河床

5 目標物からの方位・距離

標 本：上信電鉄上州七日市駅の北北西、約2km
産 地：JR 磐越線の西北西、約2km

6 2.5万分の1地形図

標本・産地ともに「松井田」

7 対象面積

標 本：――

産 地：10,000m²

8 概説

群馬県南西部の丘陵地帯を形成する富岡層群のうち、中部の原田簇層からは数多くのウミガメ化石が産出している。原田簇層は新第三紀中新世の中期（約1500万年前）に、やや深い海で堆積した地層である。

ウミガメ化石はこの層の中に点在する石灰質ノジュール中から産出する。背中の甲羅（背甲）全体が残っているものもあるが、多くは背甲や腹甲の一部である。

このウミガメ化石は、背甲に縦方向の3本の稜が発達しており、その特徴から、富山県産の標本を元に新属新種として記載されたクロベガメ（*Krobecchelys*）と同一種類である。現在の知見ではこの種類は *Syliomus* 属と考えられている。

群馬県からは様々な大きさの標本が多数見つかっている。中でも1体は頭蓋骨および四肢骨を伴なつており、この種の複原を可能にした。この種類の化石が多数見つかっている場所は世界的にも例が無く、この仲間の個体発生や系統発生を研究する上で重要なものである。

この種類の化石は富山県、埼玉県、福島県など同じ中新世の地層からも発見されており、当時の海の

つながりや海流の様子を知る重要な手がかりを与えてくれている。

9 詳細説明

8に同じ。

10 現況

標本は群馬県立自然史博物館には中島一氏（安中市在住）が採集・寄贈した標本が収蔵されている。その他、県内外の化石収集家が多くの化石を所有している。

産地は碓氷川の河床であり、時折化石愛好家が訪れて採集をしているようである。

また、この地層にはウミガメ以外にも様々な化石が含まれている。護岸工事等を行う場合にはあらかじめ調査を行う必要がある。

11 文化財指定状況

特になし。

12 他の法令等による指定状況

産地を発掘する場合については河川法が適用される。

13 土地所有者・形態

標 本：群馬県立自然史博物館（群馬県）、他
産 地：建設省

14 キーワード

爬虫類、ウミガメ、クロベガメ、*Syliomus*、*Krobecchelys*、富岡層群、原田簇層、中新世

15 ランク

IV

16 その他

特になし

17 参考文献

長谷川善和、1998、ウミガメを復元する。
第4回企画展「見てみませんか、私が掘り出した
自然の宝もの」展示解説書、群馬県立自然史
博物館、54-55.

18 記入者名

高桑祐司

19 添付図表等

2.5万分の1地形図
「松井田」



1 コード番号 1003054

2 都道府県名 群馬

3 名称

板鼻層中の貝化石床

4 所在地

群馬県高崎市、安中市、碓氷郡松井田町

5 目標物からの方位・距離

板鼻層下部層～中部層の分布域

6 2.5万分の1地形図

藤岡、高崎、富岡、松井田、三ノ倉

7 対象面積 52,000,000m²

8 概説

板鼻層は、模式地を安中市板鼻付近とし、藤岡南方から安中を経て横川の北方まで広く分布する。主に砂岩層、礫岩層で、下部の海成層から上部の陸成層に連続的に移り変わる。層厚は1,200mである。貝化石は中部まで、上部からは産しなくなる。

9 詳細説明

下部層は厚さ30～40mのリズミカルな砂泥互層よりなる。中部は礫岩、砂岩、泥岩となる。砂岩を主とし、泥岩、礫岩を挟み、巻貝、二枚貝、カキなどの化石を産出する。上部層は礫岩を主とし、砂岩、泥岩、凝灰岩、亜炭を挟み、メタセコイア、ヤナギ、カエデ、淡水珪藻などの化石を産出する。一般走向N 20°～80°W、傾斜10°～30°の同斜構造を示し、堆積サイクルが板鼻層分布地域全域に発達する。貝化石の種類は、二枚貝では*Anadara hataii* Noda, *Glycymeris cisshuensis* Makiyama, *Chlamys kaneharai* (Yokoyama), *Crassostrea gigas* (Thunberg), *Dosinia kaneharai* Yokoyama、腹足類では*Turritella tanaguraensis* Kotaka, *Sinum ineptum* (Yokoyama), *Mediago dilleri* (Anderson and Martin), *Olivella iwaikensis* Nomura and Hatai, *Cancellaria hukusimensis* Nomura and Hataiなどである。

10 現況

貝化石は、藤岡市庚申山から高崎市觀音山丘陵、安中市、松井田町北部にかけての沢底などに点々と露出する。マニアに知られている高崎市雁行川花表や安中市碓氷川水口などの一部を除いて、変化していない。

11 文化財指定状況 未指定

12 他の法令等による指定状況 不明

13 土地所有者・形態

14 キーワード

板鼻層、貝化石、植物化石、亜炭、堆積サイクル

15 ランク III

16 その他 特になし

17 参考文献

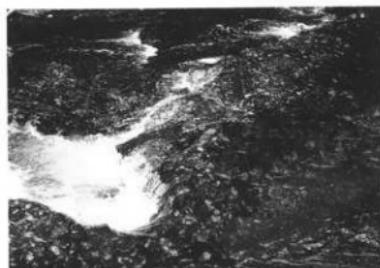
久保誠二・角田寛子, 1973, 群馬県高崎市西方に分布する板鼻層の堆積サイクル, 地質学雑誌, 79, 687-697.

大石雅之・高橋雅紀, 1990, 群馬県高崎地域に分布する中新統, 東北大地質古生物研邦報, 92, 1-17.

日本の地質「関東地方」編集委員会, 1986, 関東地方, 共立出版, 119.

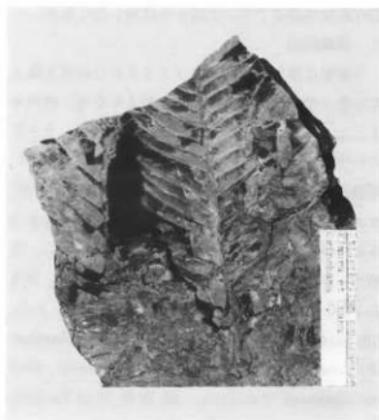
18 記入者名 中島啓治

19 添付図表等



安中市猿原の化石床

- 1 コード番号
1003055
- 2 都道府県名
群馬
- 3 名称
岩室層の植物化石 (木村コレクション)
- 4 所在地
標本：群馬県立自然史博物館
- 5 目標物からの方位・距離
産地：上越線沼田駅から片品川に沿い約22kmの地点
- 6 2.5万分の1地形図
高平
- 7 対象面積
約1,500m²
- 8 概説
岩室植物化石群は富山、新潟、長野県にまたがる来馬層群の植物群に対比され、ジュラ紀初期ライアス植物群に属するとされる（木村1952）。群馬県立自然史博物館にはこの植物群を発見・研究した木村達明氏による標本の一部が木村コレクションとして保存されている。関東地方での数少ない中生代植物群の資料として学術的意義が大きい。
- 9 詳細説明
木村コレクションは全部で1433点からなり、その構成は日本の中生代植物群を代表する桃の木層（美郷層群、山口県、4点）、歌野層（豊浦層群、山口県、69点）、岩室層（群馬県、99点）、来馬層群（富山、新潟、長野県、100点）、朽窪層（相馬中村層群、福島県、89点）、荻の浜層（荻の浜層群、宮城県、385点）、鹿折層群（宮城県、387点）、戸台層（長野県、100点）からの産出化石を含んでいる。岩室層の植物化石はそのうち99点であるが化石名まで同定されているのは39点に過ぎずそれもすべてがソテツ類の *Nilssonia orientalis* Heer の1種のみである。
- 10 現況
上述のように本コレクションはすべて群馬県立自然史博物館に保存されている。
- 11 文化財指定状況
指定なし
- 12 他の法令等による指定状況
不明
- 13 土地所有者・形態
群馬県立自然史博物館
- 14 キーワード
岩室層、木村コレクション、ジュラ紀
- 15 ランク
III
- 16 その他
1433点のうち化石名まで判明しているものは1063点で44種からなる。
- 17 参考文献
木村達明, 1952, 岩室累層の地質学的研究(1), 地質雑誌, 58, 457-468.
- 18 記入者名
山崎 允、青木 清
- 19 添付図表等



岩室層の植物化石

1 コード番号

1003056

2 都道府県名

群馬

3 名称

岩室の中生層と植物化石

4 所在地

群馬県利根郡白沢村岩室（岩室発電所から片品川の上流約500mの川岸）

5 目標物からの方位・距離

上越線沼田駅から片品川に沿い約22kmの地点

6 2.5万分の1地形図

高平

7 対象地面積

約1,500m²

8 概説

ジュラ紀初期のライアス植物群は日本では東長野層（山口県）、山奥層（岡山県）、来馬層群（富山、新潟、長野県）、志津川層群（宮城県）等からの産出が知られるが岩室層からの植物群もこれらと同時に属し、学术的、文化財的に重要な価値を有するものと考える。

9 詳細説明

利根郡白沢村岩室付近を模式地とする岩室層は片品川に沿って点々と約30kmにわたる地域に分布している。模式地では下部の礫岩層、中部砂岩・黒色頁岩互層、上部黒色頁岩層からなり、恐らく起伏の大きい古生界を覆った湖沼性ないし内湾性の浅所の堆積物と推定している（木村、1952）。

植物化石は各層準の主として黒色頁岩層から産するが、中でも中部砂岩頁岩互層の中の下部に当たる黒色頁岩層から保存の良い植物化石を産する。木村（1952）はこの中からトクサ類、シダ類、ソテツ類、ベニチテス類、イチョウ類、松柏類、など16属33種を報告した。

10 現況

岩室発電所の上流約500mの片品川右岸を中心に植物化石を多産する露頭があるとのことである。その直下流に発電所の付属施設の高さ5mほどの堰堤があり、河原の埋め立てが進んでいるようである。

そのためか露頭の一部は両岸に分布しているのに化石の産出は殆ど確認出来ない。

11 文化財指定状況

指定なし

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

岩室層、ジュラ紀、植物化石

15 ランク

IV

16 その他

特になし

17 参考文献

木村達明, 1952, 岩室累層の地質学的研究(1), 地質雑誌, 58, 457-468.

18 記入者名

山崎 允、青木 清

19添付図表等



岩室付近の片品川
(下流側より見る。遠方の堰堤の向こう側に露頭がある。)

1 コード番号

1003057

2 都道府県名

群馬

3 名称

上野村檜原の生痕化石

4 所在地

群馬県多野郡上野村檜原の神流川

5 目標物からの方位・距離

上野村役場から西へ3.8km

6 2.5万分の1地形図

浜平

7 対象地面積

1.5m²

8 概説

本化石は、神流川左岸の砂岩上に露出している。武井ほか(1977)によれば、この砂岩層は三山層下部に属する。砂岩面の走向はN65°~70°W、傾斜は82°~85°Sである。生痕化石は砂岩の下面に密集している。化石消失の危険を考慮し、群馬県立自然史博物館でレプリカを作製し、収蔵している。

9 詳細説明

化石は、*Taphrhelminthopsis*に同定され、幅1.2cmほどの長い2列の平行した歯からなる。凹状の形態で、底の形状は平坦である。この種の生痕化石は巻貝の「クイアルキアト」と考えられている。Frey(1975)によれば、この化石は半深海ないし深海の環境を指示する。生痕化石は現地性化石であることから、この地域の古環境を推定するのに有効な化石である。

10 現況

神流川沿いのコンクリート護岸直上で、観察することができる。化石露出面を被うように、太い木の根がとりついており、徐々に根による亀裂が進みつつある。何ら保護がなされていないため、風化による消失も短時間に進む可能性が大である。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

未指定

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

生痕化石、*Taphrhelminthopsis*、中山地溝帯

15 ランク

Ⅲ

16 その他

特になし

17 参考文献

田中宏之, 1986, 群馬県南部の中山地溝帯白亜系から発見された生痕化石(*Taphrhelminthopsis*)について、群馬県立歴史博物館紀要, 7, 17-22.

Frey, R. W., 1975, The realm of ichnology, its strength and limitation, in Frey, R. W., eds., The study of trace fossils, Springer-Verlag, Berlin, 13-38.

18 記入者名

野村正弘

19 添付図表等



- 1 コード番号 未指定
1003058
- 2 都道府県名 12 他の法令等による指定状況
群馬 不明
- 3 名称 13 土地所有者・形態
折田の魚化石産地 国(建設省)、個人、民有地
- 4 所在地 14 キーワード
群馬県吾妻郡中之条町大字折田地内四万川畔 海棲魚化石、現地性化石
- 5 目標物からの方位・距離 15 ランク
JR 中之条駅より西 3 km IV
- 6 2.5万分の1地形図 16 その他
中之条 現在は採集の可能性は低いが、折田層の化石は現地性のため、全域保存の措置が望ましい。
- 7 対象地面積 17 参考文献
20km² 新野弘, 1931, 群馬県吾妻郡澤田村上折田第三紀層に発見された魚類等の化石 地質学雑誌 Vol.44 No.525
- 8 概説 18 記入者名
中之条 戸谷啓一郎
- 四万川に架かる笛吹橋の上流凡そ 1 km の两岸には凝灰質の泥岩、砂岩の地層が暖い南傾斜で露出している。地層の表面は酸化して黄褐色をしているが新しい面は灰白色ないし青味がかった淡緑灰白色をしている。この地層が折田層または山田層と呼ばれている第三紀の海成層で多くの植物、動物化石を産出している。
- 9 詳細説明 19 添付図表等
- 特に良質の魚類化石産地として古くから知られている。魚化石が発見されたのは1929年の頃で、当時はかなり多くの化石が採集されたと言われている。
- 新野弘博士の研究による文献によればヒラメ科、ギンボウ科、カサゴ科およびサバ科等の魚類化石等14点が同定されている。その他にも数種の海棲魚や貝化石が産出している。
- 折田層の化石は魚化石に限らず保存がたいへん良好で、現地性化石として産出するので棲息環境や地層の年代決定として貴重な化石産地といえる。新野博士の同定した標本は第二次大戦の戦災によりほとんど失われてしまったと言われているが、当時同定された唯一の標本が県立自然史博物館に保管されている。
- 10 現況
- 11 文化財指定状況
- 
- 

1 コード番号

1003059

2 都道府県名

群馬

3 名称

叶山・二子山の石灰岩とフズリナ化石

4 所在地

群馬県多野郡中里村町二子山約2km

5 目標物からの方位・距離

叶山

中里村宮地の南西

二子山

中里村宮地の南東約2.5km

6 2.5万分の1地形図

両神山

7 対象面積

1 km²

8 概説

山中地溝帯の北側には、東南東から西北西にかけて、大きな石灰岩体が数個よこたわっている。叶山と二子山はその一部からなる山である。以前、叶山は登山者でぎわっていたが、現在はセメント会社が頂上付近から石灰岩の採掘を進めているため、かつてのおもかげはない。頂上付近では、かつてフズリナやウミユリ、サンゴの化石なども見られた。二子山の岩体にもフズリナ、サンゴ、ウミユリなどの化石が多く含まれる。二子山の山頂や東岳付近では転石の表面にそれら各種の化石がみられる。フズリナの化石によるこれら石灰岩体の年代は、石炭紀後期から二疊紀中期にわたっている。

9 詳細説明

上に同じ

10 現況

叶山の山頂部は消失した。二子山の周囲には林道が通じアプローチが容易になった。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

叶山、秩父セメント株式会社による鉱区権設定

13 土地所有者・形態

14 キーワード

化石、石灰岩、フズリナ、石炭紀、二疊紀

15 ランク

III

16 その他

二子山は秩父の名峰であり、登山やハイキングで人々に親しまれ、貴重な動物や植物の宝庫となっている。現状のまま後世にその景観を保存していくことが必要である。

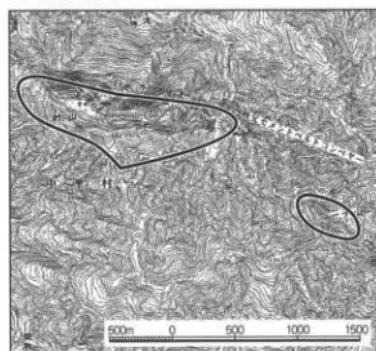
17 参考文献

酒井 彰・堀口万吉, 1986, 秩父帶, 日本地質
3 関東地方, 12-20, 共立出版 kk.

18 記入者名

黒田健次

19 添付図表等



北側林道より見た二子山。右が西岳、真ん中が股峰、北が東岳

1 コード番号

1003060

2 都道府県名

群馬

3 名称

兜岩層産出のカエル化石 (2点)

4 所在地

標本：群馬県立自然史博物館

群馬県富岡市上黒岩1674-1

产地：群馬県甘楽郡南牧村磐戸

5 目標物からの方位・距離

標 本：上信電鉄上州七日市駅の北北西、約2 km

產 地：星尾峠の南西、約1.2 km

6 2.5万分の1地形図

產 地：荒船山

7 対象面積

產 地：不明

8 概説

カエル化石を含む岩層は湖成堆積物とされる層理の発達した凝灰岩である。同層からはカエル化石の他に、保存良好な植物、昆虫などの化石（興水、1982）も多数発見されている。兜岩層（or 本宿層上部）と呼ばれ、その時代は新生代新第三紀鮮新世とされる。

カエル化石は今までに10点以上の産出が確認されている。中にはオタマジャクシの化石もある。天然記念物指定の2点の標本の他、大部分は個人所蔵の標本となっており、正確な産出数は定かではない。

県指定天然記念物に指定された2点の標本は、群馬県立自然史博物館に収蔵されている。2点とも全身骨格がほぼ完全に保存されている。また、軟体部、すなわち皮膚の印象が残されている。

昭和52年5月に茨木宣雄氏によって発見された標本は、極めて鮮明な、軟体部および表皮のカラーパターンを残しているほぼ完全な標本で、前指および後指の先端を欠く程度である。計測値は胴長38mm、胴幅17mm、頭蓋骨最大幅17mm、上腕骨長8mm、大腿骨長17mm、脛骨長18.5mmである。骨質は溶解して無く、外型印象が見られる。大腿部の上に4本、ふくらはぎの部分に大・小2本ずつのカラーバンドの

存在を示す印象がある。

この標本は左右の大腿部の軟体部の幅（9mmと11mm）に差があることから考えると、ミイラ状になつた遺骸が化石化した可能性がある。

Rana architemporalia (Okada, 1937) は同じく兜岩層から産出した標本に付けられた学名で、完模式標本は京都大学理学部に保管されている。この模式標本が鮮明でなく、指定された標本との特長の相違について比較できない。

Rana temporalia すなわちエゾガエルとは骨格の特徴が似るが、頭蓋骨の長さと幅が小さく、肘が短いことから別種にされた。鹿間はこれに「ムカシアカガエル」の和名をつけた。当該標本の模様からすればアカガエルに属するが、種の決定には各種の変異を比較することが今後の課題である。

よって、現段階では *Rana aff. architemporalia* とするのが妥当である (Nokariya and Hasegawa, 1998)。

この様に極めて良好な保存状態のカエル化石は国内外を問わずほとんど例がない。

もう1点は昭和56年5月に野村家宏氏が採集した標本である。カラーパターンは保存されていない大型のカエルである。軟体部は黒っぽく残り、外型は明瞭であるが、皮膚の模様は不鮮明である。骨格はかなり完全な標本である。片側の手足は欠けている。残っている側の指は不完全であるが、その大きさについては判定できる。主な計測値は大腿骨長26mm、大腿部の太さ13mm、脛骨長28mm、ふくらはぎの太さ10mm、踵から指先までの長さ35mmである。兜岩層産の標本中では最大のものである。種類については確定できておらず、*Rana sp.* とされている。

9 詳細説明

8に同じ

10 現況

天然記念物指定標本は群馬県立自然史博物館に収蔵・保管されている。

11 文化財指定状況

県指定天然記念物 960329

12 他の法令等による指定状況

化石産地は妙義荒船佐久高原国定公園と隣接地域内にあり、自然公園法が適用される。

それ以外は特になし。

13 土地所有者・形態

標 本：群馬県立自然史博物館

産 地：国有林

14 キーワード

両生類、*Rana aff. architemporalia*、アカガエル属、カエル、皮膚化石、兜岩層、上部本宿層、鮮新世

15 ランク

V

16 その他

特になし

17 参考文献

興水太仲, 1982, 長野・群馬県境第三紀鬼岩植物化石層昆蟲化石. 地学研究, 33, 397-426.

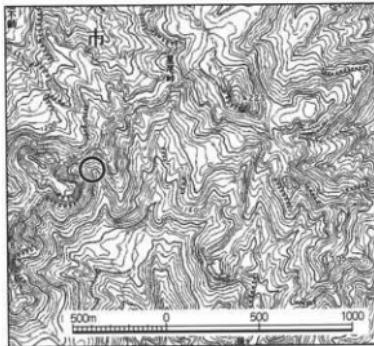
Nokariya, H. and Hasegawa, Y., 1998 : Two fossil ranids from the Late Tertiary Kabutoiwa Formation, Gunma Prefecture, Central Japan. *Bulletin of Gunma Museum of Natural History*, 2, p. 1-10.

Okada, Y., 1937 : Fossil frog from Japan. Trans. Proc. Palaeont. Soc., Japan, no. 30, p. 27-29.

18 記入者名

高桑祐司

19 添付図表等



カエル化石

1 コード番号

1003061

2 都道府県名

群馬

3 名称

上黒岩のオオツノシカ

標 本：オオツノシカの化石骨（12点）

龍骨碑：発掘に関する記録を記した碑

鑑定書：幕府の侍医丹波元簡の鑑定により描かれた

鑑定書。谷元旦の描いた実物大の画と

計測値、鑑定結果が書かれている。

出土記録：発掘当時の様子を描いた書物の写本

4 所在地

標 本：蛇宮神社

群馬県富岡市七日市

龍骨碑：群馬県富岡市上黒岩

鑑定書：大日尊遍照寺

群馬県富岡市上黒岩

※寄託先：富岡市立美術博物館

群馬県富岡市黒川

出土記録：大日尊遍照寺

群馬県富岡市上黒岩

5 目標物からの方位・距離

標 本：上信電鉄上州七日市駅の南400m

発掘碑：上信電鉄上州七日市駅の北北西2300m

鑑定書：上信電鉄西富岡駅の北2300m

※寄託先：上信電鉄、上州七日市駅の北

北西、約2km

出土記録：上信電鉄西富岡駅の北2300m

6 2.5万分の1地形図

発掘記念碑は「松井田」他3点は「富岡」

7 対象面積

発掘碑：25m²

8 概説

上記、4件の物件は200年以上前の化石発掘とその後の経過に関する記録の一式である。絶滅動物化石の発掘を行い、鑑定のため江戸に送り、その後現物は江戸に残されていた。鑑定書等は当初から富岡に残されていたが、現物は太平洋戦争の空襲で東京が焼け野原になる直前の昭和8年に所有者（前田家）

から地元蛇宮神社に寄贈され、その結果関係物件がほとんど全て残されている。これは古生物学研究上まれな例である。また、科学的にも興味深いものである。

戦後10年近く経ってから、標本は再発見され、研究が行われ、ヤベオオツノシカのものであることが明らかとなった（Shikama and Tsugawa, 1962）。標本は発掘当初19点産出したが、後に少しづつ失われ、現在しているのは右角1、左角1、右下顎骨2、左下顎骨1、脊椎3、肋骨1、左肩甲骨2、左中足骨1の計12点である。様々な古文書を調べると、どの骨が無くなったかを知ることができる（中東、1982）。

ヤベオオツノシカの完模式標本は栃木県葛生産の不完全な角と下顎骨であったが、富岡からはいずれも完全な状態で見つかっている。実際には上黒岩の標本の方が早く発見されていたのであるから、再発見が早まっていればこの標本が完模式標本になっていたことは明らかで、その学術的価値は非常に高い。その後も日本各地からオオツノシカの化石が発見されているが、ほぼ完全な左右の角化石が見つかっているのは富岡だけである。

角の第一分岐枝、すなわち眉枝は前方上へ向かって発達する。これは *Sinomegaceros* 属の特徴である。角幹は外後方に延び、その先端は縱に広がり角冠を形成する。角幹は右側の方がやや太く、長さも大きい。しかし、シカ類の角の変異は大きく、この2点の角は同一個体のものと考えても差し支えないであろう。

下顎骨は3点産出している。うち2点は保存状態も類似し、さらに下顎結合部の凹凸もよく合うので、1個体に由来することが明らかである。もう1点は保存状態が極めて悪い。右の下顎骨が2点残存していることから、少なくとも2個体分あったことは明らかである。さらに現存しないものの中に下顎骨と思われる骨がある。下顎骨の下顎体の断面形は他のシカ類と比べて丸くなる。下顎骨に植立する第3大臼歯の後葉は前位の中葉にもたれかかる。この特徴はオオツノシカ類の特徴である。

9 詳細説明

8に同じ

10 現況

標 本：蛇宮神社の社宝である。

神殿横にある保管庫の専用箱に納められている。年に1度祭事の際に公開しているほか、各地の博物館からの貸出等には前向きに対応している。

龍骨碑：近年、その一部の補修を行ったが、ほぼ当時のまま現地にある。碑は風化して文字の判読が難しくなってきてている。

鑑定書：所有者が富岡市美術博物館に寄託し、その収蔵庫に保管されている。

発掘記録：大日尊遍照寺に保管されている。

11 文化財指定状況

標本・鑑定書・発掘碑3点一括でオオツノシカの化石骨一括として昭和五十年に富岡市天然記念物に指定されている。750430

12 他の法令等による指定状況

特になし

13 土地所有者・形態

標 本：蛇宮神社

発掘碑：発掘碑の立っている丘陵の所有者は上黒岩在住の野口氏

鑑定書：遍照寺 住職 斎藤圓成

発掘記録：同上

14 キーワード

シカ科、*Sinomegaceros yabei*、ヤベオオツノシカ、更新世、発掘、江戸時代

15 ランク

IV

16 その他

特になし

17 参考文献

中東耕志、1982、富岡市上黒岩出土のオオツノシカー出土記録を中心としてー、群馬県立歴史博物館紀要3、14-162。

尾崎博、1960、黒岩山の竜骨、自然科学と博物館、27、8-15。

Shikama, T. and Tsugawa, S., 1962 : Megacerid Remains from Gunma Prefecture, Japan. Bull. Nat. Sci. Mus., 50, 1-13.

鹿間時夫・長谷川善和、1962、群馬県富岡の巨角鹿について、地学雑誌、71(6), 3-9。

18 記入者名

高桑祐司

19 添付図表等



オオツノシカ

1 コード番号

1003062

2 都道府県名

群馬

3 名称

桐生・梅田の石灰岩層

4 所在地

群馬県桐生市梅田町 5 丁目

5 目標物からの方位・距離

J R 桐生駅から北東へ13~14km

6 2.5万分の1地形図

沢入

7 対象地面積

80,000m²

8 概説

足尾帯に属するこの石灰岩は、古生代・ペルム紀の化石を豊富に産出する。その中でも、三葉虫化石は特に重要で、県内はもちろん関東地区でも、重要な三葉虫化石の産出地である。

9 詳細説明

桐生川上流、梅田町5丁目津久原付近には、石灰岩層が数ヶ所にブロック状に分布する。この石灰岩層は化石が豊富で、フズリナ、三葉虫、サンゴ、コケ虫、海ユリ、ワンソク類、コノドント、サメの皮歯などの化石を産出する。年代は、古生代・ペルム紀とされている。

ワンソク類化石では、テーチス海の代表的なワンソク類として重要なリットニア化石も数多く発見されている。

関東地区で三葉虫化石が発見されているのは、ほかには栃木県葛生町での2個体だけである。桐生から産出する三葉虫は新種でシードフィリップシャー・キリュウエンシス (*Pseudophillipsia kiriuensis*) と命名された。種名に桐生の名が付けられている。この地は、関東地区における三葉虫化石の貴重な産出地、といえるであろう。

10 現況

フズリナなどの化石は、津久原地区のほとんどの石灰岩露頭から見つけられるが、三葉虫化石が発見できるのは、主に次の2地域である。高仁田沢には

小さな鍾乳洞もあり、ときどき化石採集・地層観察会が行われている。米沢には、石灰岩の採掘跡地がある。

11 文化財指定状況

未指定地

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

個人および桐生市（詳しくは不明）

14 キーワード

足尾帯、ペルム紀、三葉虫、リットニア

15 ランク

III

16 その他

特になし

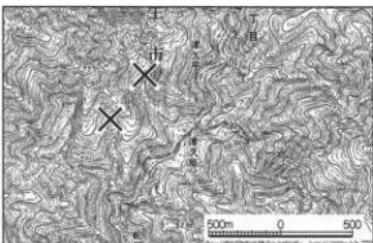
17 参考文献

林 信悟・ほか、1990、足尾山地南西部の中・古生界、群馬県立歴史博物館紀要、11、1-34。

18 記入者名

藤井光男

19 添付図表等



梅田の石灰岩

1 コード番号

1003063

2 都道府県名

群馬

3 名称

下仁田町虻田のネフロレピディナ

4 所在地

群馬県甘楽郡下仁田町虻田の小坂川

5 目標物からの方位・距離

下仁田町役場から北西へ5.1km

6 2.5万分の1地形図

下仁田

7 対象面積

1,800m²

8 概説

産地は下仁田町北西を流れる小坂川の虻田地内である。本地域の富岡層群井戸沢層は、灰色石灰岩と暗灰色珪質頁岩および固結度のよい青白色砂岩の互層からなる。また、海緑石・軽石・亜炭を含む場合もある。この層準は井戸沢層の最下部にあたる。化石を含む石灰岩は、灰色シルト岩の角礫も含む。

9 詳細説明

虻田石灰岩部層は、從来“*Lepidocyclina*”と呼ばれてきた大型有孔虫*Nephrolepidina*を多産する。また、まれに*Cyclocypris*を産し、*Miogypsina*も報告されている。大型有孔虫以外では、小型有孔虫の*Amphistegina*, *Textularia*、浮遊性有孔虫の*Globigerina*、サンゴ、石灰藻、コケムシを共産する。

10 現況

小坂川河床に露出しているが、露出状況は悪化している。一部、護岸工事がなされている。

11 文化財指定状況

未指定

12 他の法令等による指定状況

未指定

13 土地所有者・形態

国

14 キーワード

大型有孔虫・虻田石灰岩部層・井戸沢層

15 ランク

IV

16 その他

特になし

17 参考文献

Matsumaru, K. 1967. Geology of the Tomioka Area, Gunma Prefecture, with a note on “*Lepidocyclina*” from the Abuta Limestone Member. Sci. Rep. Tohoku Univ., 2nd Ser. (Geol.), 39, 2, 113-147.

18 記入者名

野村美子、野村正弘

19 添付図表等



石灰岩露頭（二枚）

1 コード番号

1003064

2 都道府県名

群馬

3 名称

瀬林の化石

4 所在地

群馬県多野郡中里村

5 目標物からの方位・距離

志賀坂峠の北西約2km

6 2.5万分の1地形図

両神山

7 対象地面積

不明

8 概説

一帯は「山中地溝帯」と呼ばれる中生代白亜紀の模式的な地域である。地層は、最下部より石堂層、瀬林層、三山層と続き、主に石堂層、瀬林層からアンモナイト、トリゴニア、ウニ、二枚貝類等の化石を多産する。主な産地は一ノ瀬橋左岸、八幡沢、連痕化石下の右岸崖等。

9 詳細説明

間物沢川沿いに沿って、「おおぜの滝」から上流に向かって順に石堂層、瀬林層、三山層と地層が続いている。上部地層の方が新しい地層となっている。秩父中・古生層と白亜系の地層は不整合で重なり、それが滝の地点に現れている。この近くにはその上に重なる石堂層が見え、チャートレキよりもレキ岩を多く含んでいる。

川が国道を横切ったところに一の瀬橋があり、その左岸の露頭が有名な化石産地である。砂岩の中にアンモナイトやトリゴニア、二枚貝等の化石が見つかる。そこからさらに上流に上って、駐車場の所に入り込む間物沢川の支流の小さな沢、八幡沢の左岸からも化石を多産する。ここは瀬林層の地層で、シダ類等の植物化石やシジミ類、巻き貝等汽水性貝類の化石を多産する。あるときは密集して産出する。さらにその上部の三山層からは、そう多くの化石は産出しない。八幡沢では、ダチョウ型恐竜の骨化石が発見されている。主な化石は下記のとおりである。

石堂層

二枚貝：*Torigonia sp.*, *Pterotorigonia pulliformis*, *Nippontorigonia kikuchiana*, *Bakevella havadac*, *Lopha diluviana*, *Astavte subsenecta*, *Corbicula sanchuensis*

アンモナイト：*Hamites sp.*, *Phylloceras aff.*, *Barremites aff.*, *Heteroceras aff.*

ウニ：*Washitaster*, *Enallaster*
等。

瀬林層

二枚貝：*Polymesoda sp.*, *Corbicula sanchuensis*, *Ostrea sp.*

シダ類：*Onychiopsis elongata*, *Cladophlebis exiliformis*, *Zamiophyllum buchianum*, *Nilsonia schumburgensis*, *Sphenaptris tenuicula*

等

10 現況

一の瀬橋には、露頭がある。八幡沢は、入り口に柵が設けられて中には入れない。

11 文化財指定状況

なし

12 他の法令等による指定状況

不明

13 土地所有者・形態

不明

14 キーワード

化石、中生代、白亜紀、山中地溝帯

15 ランク

III

16 その他

特になし

17 参考文献

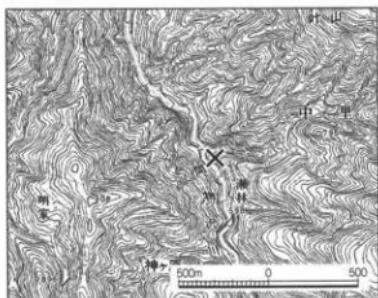
日本の地質『関東地方』福集委員会編, 1986, 日本の地質3 関東地方、共立出版, 335p.

多野地方誌

18 記入者名

黒田 健次

19 添付図表等



瀬林産出の三角貝



アンモナイト